



ULVAC



ULVAC REPORT 2013

CSR & Annual Report

アルバックグループについて

すべてのステークホルダーに対して責任を果たすこと。
そして最先端の技術を研究開発し、
社会に貢献することがアルバックグループのCSRです。

▶ 経営基本理念

アルバックグループは、互いに協力・連携し、
真空技術及びその周辺技術を総合利用することにより、
産業と科学の発展に貢献することを目指す。

▶ 経営方針

- 顧客満足 of 増進
- 生産技術の革新
- 独創的な商品開発
- 自由闊達な組織
- 企業価値の向上



▶ INDEX

アルバックグループについて・編集方針.....1
アルバックグループの概要.....3
トップインタビュー.....5
持続的な成長に向けて.....9
技術特集：クルマと真空.....11
アルバックグループの活動報告.....16

▶ 技術 Technology

アルバックブランドの向上をめざして.....17
構造改革と一貫した調達活動.....19
地域に根ざしたアルバックグループのグローバル事業展開.....21
アルバックグループのグローバル知的財産.....22

▶ 環境 Environment

アルバックグループのグローバル環境経営.....23
環境配慮製品.....24
アルバックグループの環境パフォーマンス.....26

▶ 組織 Organization

努力と成果に報いる人事制度により個人と組織の活性化へ.....27
CSR社員意識調査結果を受けて.....29
「健康づくり」で真空技術をサポート.....30
労働安全衛生.....31
グローバルな企業市民活動.....33

CSRの活動実績と目標一覧.....35

コーポレート・ガバナンス/コンプライアンス.....37
リスクマネジメント.....38

役員一覧.....39

財務ハイライト.....41
営業の概況.....43
株式の状況.....46

編集方針

今年度のレポートより「アニュアルレポート」と「CSRレポート」を統合し、「アルバックレポート」として一新しました。アルバックグループの業績に加えて、CSR活動の取り組みをステークホルダーの皆様にご理解いただくとともに、コミュニケーションを促進していく重要なツールと位置づけ発行しています。

- 発行：
2013年9月
(前回発行2012年9月、次回発行予定2014年9月)
- 参考にしたガイドライン：
ISO26000；2010 (Guidance on social responsibility) 第1版

対象範囲と期間

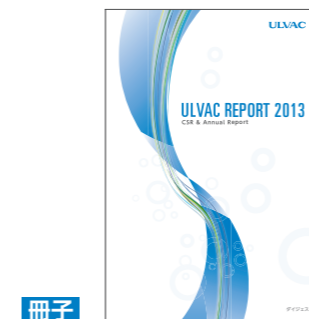
【対象範囲】
▶アルバックグループ
アルバックグループを対象としています。一部対象範囲が異なる箇所は、その旨を明記しています。
【対象期間】
▶2013年6月期（2012年7月1日～2013年6月30日）
一部この期間外の情報が含まれている箇所は、その旨を明記しています。

〈免責事項〉

本レポートに記載されている表やグラフの数値は、四捨五入して表記しているため、合計値と異なる場合があります。また、対象範囲の拡大や算出方法の見直しに伴い、一部過年度データを修正している箇所があります。

コミュニケーションツールのご紹介

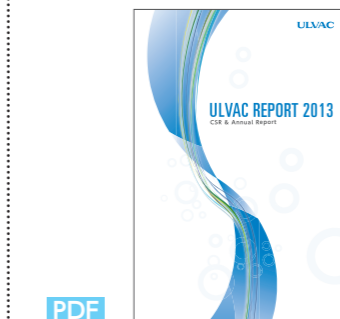
アルバックレポート2013
[ダイジェスト]



冊子

すべてのステークホルダーの皆様にお伝えしたい重要な取り組みをまとめ、冊子としてご報告いたします。

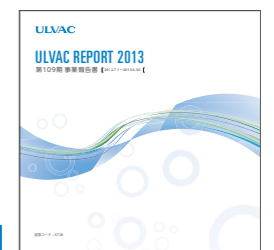
アルバックレポート2013
[フルレポート] 日・英



PDF

アルバックの取り組みをより深くご理解いただくために、PDFデータにて2012年度の取り組みを網羅的に掲載しています。

アルバックレポート2013
[第109期 事業報告書]



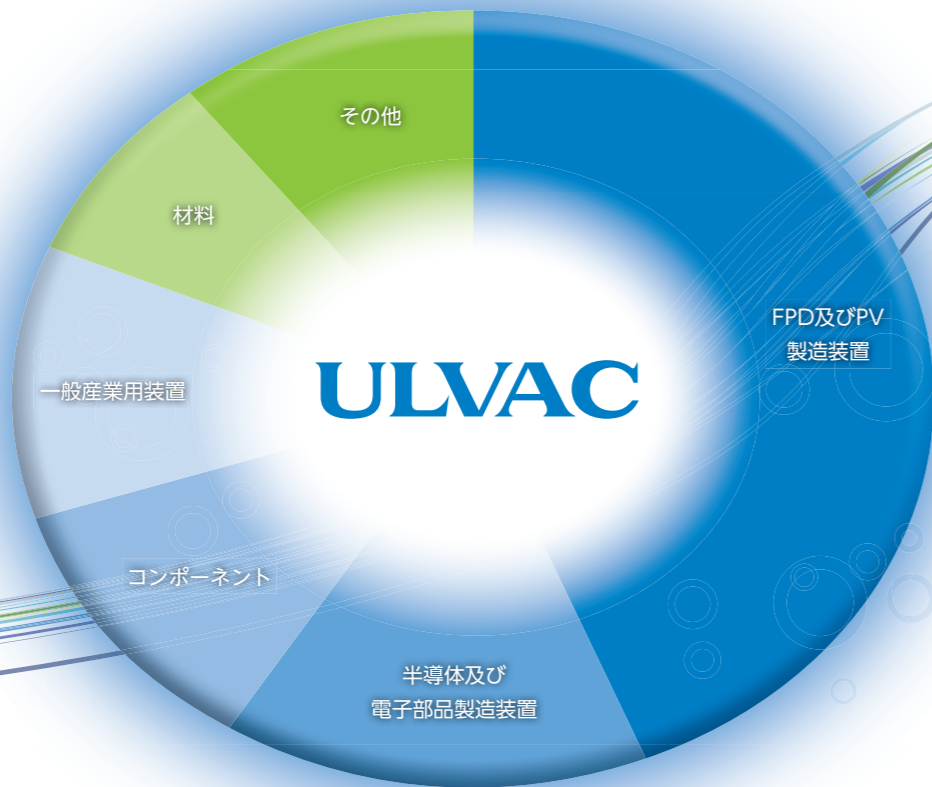
冊子
PDF

主に株主の皆様を対象に、2012年度の事業概況をわかりやすく報告いたします。

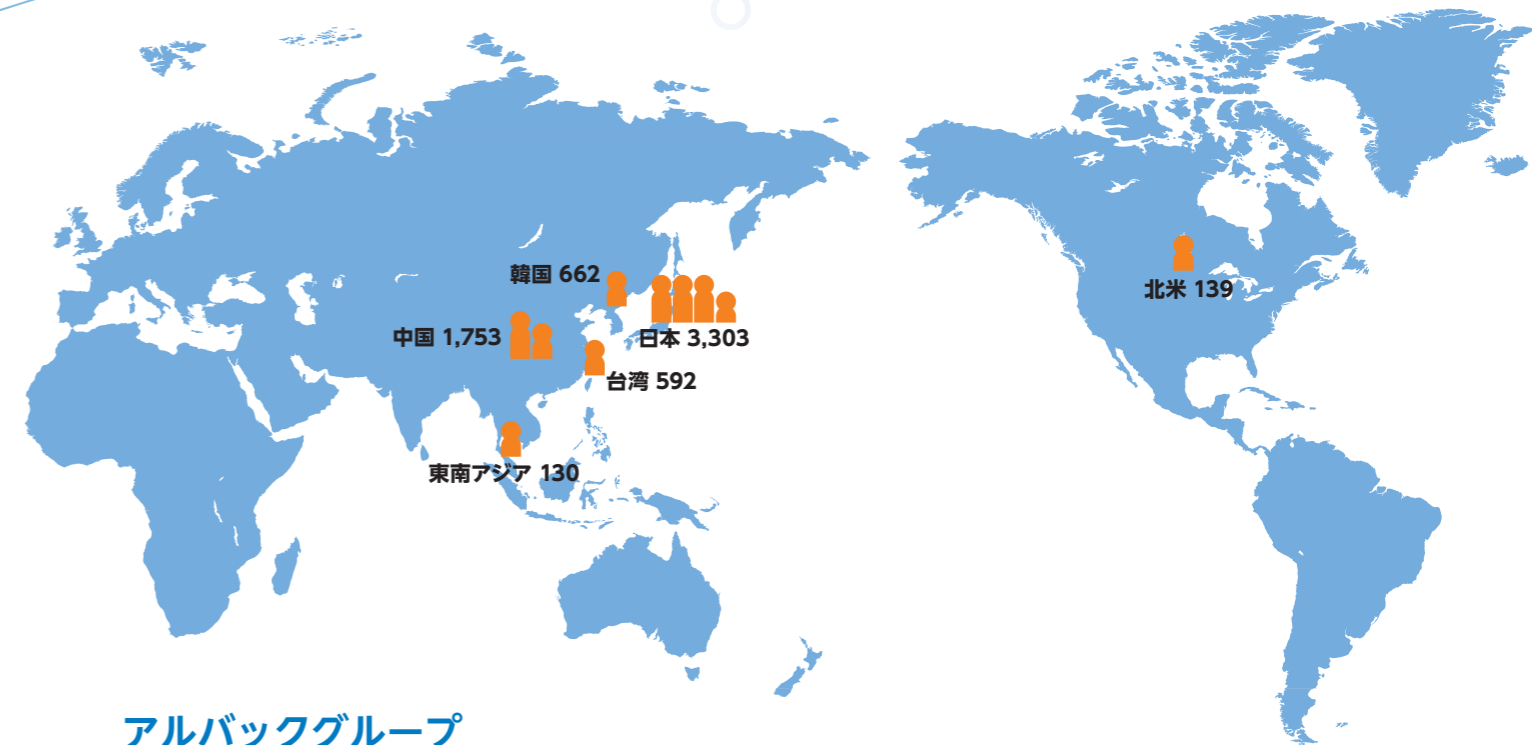
アルバックグループの概要

■商号 株式会社アルバック ULVAC,Inc.
 ■商標 ULVAC
 ■本社 神奈川県茅ヶ崎市萩園2500番地
 ■設立 1952年8月23日
 ■資本金 208億7,304万2,500円

■従業員数 1,148名(連結6,579名)(2013年6月末現在)
 ■事業内容 ディスプレイ・太陽電池・半導体・電子・電気・金属・機械・自動車・化学・食品・医薬品業界及び大学・研究所向け真空装置、周辺機器、真空コンポーネント、材料の開発・製造・販売・カスタマーズサポート及び諸機械の輸出入。また、真空技術全般に関する研究指導・技術顧問。



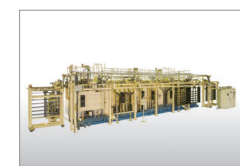
連結地域別従業員数 (2013年6月末現在)



Vacuum Equipment Business & Vacuum Application Business

アルバックグループの事業内容

▶ 真空機器事業 ▶ 真空応用事業



▶ 一般産業用装置

- ・真空熱処理炉
- ・真空溶接炉
- ・真空焼結炉
- ・真空ろう付炉
- ・希土類永久磁石生産装置
- ・凍結真空乾燥装置



▶ FPD及びPV製造装置

- ・液晶ディスプレイ製造装置
- ・有機EL製造装置
- ・インクジェットプリンティング装置
- ・真空巻取蒸着装置
- ・薄膜シリコン系太陽電池製造装置
- ・結晶系太陽電池製造装置
- ・化合物系太陽電池製造装置



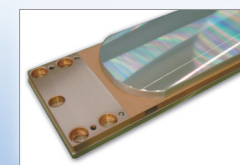
▶ コンポーネント

- ・真空ポンプ
- ・ヘリウムリークディテクタ
- ・質量分析計
- ・表面形状測定装置



▶ 半導体及び電子部品製造装置

- ・半導体(メモリー、ロジック、パワー半導体など)製造装置
- ・LED製造装置
- ・電子部品製造装置



▶ 材料

- ・スパッタリングターゲット材料
- ・高融点活性金属材料及び部品製作
- ・ナノメタルインク



▶ その他

- ・表面分析装置
- ・制御装置
- ・電気自動車用急速充電器
- ・熱分析装置
- ・委託加工

アルバックグループ

株式会社アルバック

国内グループ会社

- アルバックテクノ(株)
- アルバック九州(株)
- アルバック東北(株)
- アルバック機工(株)
- アルバック理工(株)
- 日本リライアンス(株)
- アルバック販売(株)
- アルバック・クライオ(株)
- アルバック・ファイ(株)
- アルバック成膜(株)
- (株) 昭和真空
- (株) RAS
- タイゴールド(株)
- 日真制御(株)
- (株) イニシウム
- アルバックエンジニアリング(株)
- アルバックヒューマンリレーションズ(株)
- 真空セラミックス(株)
- (株) ファインサーフェス技術

海外グループ会社

- 北米
 - ULVAC Technologies, Inc.
 - Physical Electronics USA, Inc.
- 欧州
 - ULVAC GmbH
- 中国
 - 愛発科(中国) 投資有限公司
 - 寧波愛発科真空技術有限公司
 - 愛発科真空技術(蘇州) 有限公司
 - 愛発科東方真空(成都) 有限公司
 - 愛発科自動化科技(上海) 有限公司
 - 愛発科天馬電機(靖江) 有限公司
 - 愛発科中北真空(沈陽) 有限公司
 - ULVAC CRYOGENICS (NINGBO) INCORPORATED
 - 愛発科商貿(上海) 有限公司
 - 寧波愛発科精密鑄件有限公司
 - 愛発科電子材料(蘇州) 有限公司
 - 愛発科豪威光電薄膜科技(深圳) 有限公司
 - 愛発科(蘇州) 技術研究開発有限公司
 - 洛陽鑫友鋳業有限公司
 - 香港真空有限公司

- 台湾
 - ULVAC TAIWAN Inc.
 - ULTRA CLEAN PRECISION TECHNOLOGIES CORP.
 - ULVAC SOFTWARE CREATIVE TECHNOLOGY, Co., Ltd.
 - ULVAC Materials Taiwan, Inc.
 - ULVAC AUTOMATION TAIWAN Inc.
 - ULVAC Research Center TAIWAN, Inc.
 - ULCOAT TAIWAN, Inc.
- 韓国
 - ULVAC KOREA, Ltd.
 - Ulvac Korea Precision, Ltd.
 - Pure Surface Technology, Ltd.
 - ULVAC CRYOGENICS KOREA INCORPORATED
 - UF TECH, Ltd.
 - ULVAC Materials Korea, Ltd.
- 東南アジア
 - ULVAC SINGAPORE PTE LTD
 - ULVAC MALAYSIA SDN.BHD.
 - ULVAC (THAILAND) LTD.

確実・安定的な収益確保により、「強いアルバック」の実現をめざします。

Q1 当期(2013年6月期)の営業状況及び成果についてお聞かせください。

FPD・半導体関連の設備投資が伸びず、厳しい状況に

アルバックを取り巻く事業環境は、2012年の春から夏にかけて、スマートフォンとタブレット端末の需要が急速に拡大したことから、FPD(フラットパネルディスプレイ)関連市場及び半導体関連市場での大幅な成長が期待されました。しかし、それらによる設備投資は一時的な伸びにとどまり年末には冷え込んだほか、PC需要の縮小が継続し、大型液晶TV用の設備投資も停滞が続くなど、一般的に厳しい状況となりました。

そうした中、主力のFPD及びPV(太陽電池)製造装置の売上が落ち込みましたが、下期以降は、中国を中心に有機EL関連の投資が動きはじめ、受注拡大につながりました。また、半導体及び電子部品製造装置も、PC需要の低迷を受け、受注・売上とも減少しましたが、2012年末からはメモリー関連の在庫調整が終わり回復に向かってきました。コンポーネントは小型ポンプを中心に堅調に推移し、一般産業用装置は凍結真空乾燥装置が健闘するなど、エレクトロニクス以外の幅広い分野で展開する品目は底堅さを見せました。材料はFPDや半導体の減産を受け、低調に推移しました。

結果として当期の受注高は、1,668億円と前期に比べ9.6%増加したものの、売上高は1,634億円と前期に比べ17.0%減少しました。

損益分岐点の引き下げにより、営業利益を黒字化

一方、営業利益については、61億円を確保し、黒字回復を果たしました。また、売上総利益率は上場来最高値の22.6%となり、営業利益率も3.7%に改善しました。また、フリーキャッシュ・フローについても179億円の黒字となりました。

こうした転換を実現したのは、「事業構造改革プラン」に基づき全社を挙げて、損益分岐点の引き下げに向けて取り組んだ努力の成果です。製造原価を下げる、追加原価の発生を抑える、さらに固定費の削減といったコスト削減に取り組んだ結果、当社単体で前期に比べ経費を40%以上削減するという大きな成果を出すことができました。

特に、「フロントローディング」と言われる手法の導入、すなわち、アルバックが持っている英知、過去のデータ、技術仕様、そういったものを全部集めて、仕事をする前にリスク対策を徹底する、ということをやりました。それによって、追加コストの発生を抑え、コストを予算の範囲内

に収めることが可能となりました。

一方で、マテリアル事業における一部不採算製品の見直しを実施しました。これに伴う特別損失の計上により、最終的に38億円の当期純損失となりましたが、今後の利益拡大につながる採算性の改善を果たすことができました。

Q2 事業構造改革の進捗状況及び新たに策定された中期経営計画についてご説明願います。

損益上のプラス要素を増やすさまざまな改革を実施

当期は「事業構造改革プラン」に基づき、損益上のプラス要素を増やすためのさまざまな改革を行ってきました。

「開発戦略」として、顧客ニーズと市場の動向を捉えたタイムリーな製品開発に向けてマーケティング体制を整える一方、「営業戦略」として、PM(プロダクトマネージャー)体制と、専門の販売会社(国内の販売会社)であるアルバック販売(株)による販売体制を確立しました。アルバック販売(株)を設立したことで、事業部の枠を越えたお客様ごとの専任の営業マンを配置することができるようになりました。また、営業本部内に新設した市場開拓室が中心となり、東南アジアや南米などの新たな成長市場への展開に着手しました。

「コスト競争力強化」という点では、先に述べましたコスト削減に加えて、「単純化(Simple)」、「共通化(Same)」、「標準化(Standard)」の「3S」による強化を進めており、今後これをさらに追求していきます。そして、グローバル生産体制の拡充については、日本・台湾・韓国・中国の4極体制を確立し、よりお客様に近いエリアで、低コストかつ技術面でもベストな製品を供給するこ

とが可能となりました。

また、「人事制度改革」、「業務改革」、「リスクマネジメント」、「グループ経営管理」などの施策についても、引き続き着実に遂行していきます。

利益体質の強化によって実現する「強いアルバック」

アルバックでは、事業構造改革を着実に実施するとともに、その指針となる2014年6月期から2016年6月期までを計画期間とする中期経営計画を策定し、スタートしました。本計画は、「確実・安定的に収益確保できる体制の確立」をめざし、それによって「成長への余力を確保」することを基本方針に掲げています。

これまで述べてきました通り、目標としていた営業利益の黒字回復を果たすことができましたが、最終損益は3期連続の赤字という結果になりました。

この状況に対処し、株主の皆様をはじめ、金融機関、お客様、社会、社員といったすべてのステークホルダー様が期待する「強いアルバック」を利益体質の強化によって実現していくことを示す、これが中期経営計画の策定理由です。

中期経営計画の策定について

1. 中期経営計画策定の背景

2013年6月期においては液晶・半導体を中心に顧客の投資が減少または延期されたことなどにより、売上高は前期に比べ減少いたしました。2012年に策定した「事業構造改革プラン」を遂行することにより、営業利益、経常利益とも黒字化は達成いたしました。マテリアル事業における一部不採算製品の見直しなどに伴う特別損失により、最終的に当期純損失を計上することとなりました。

こうした状況の中、より確実・安定的に利益を出せる体制を確立するため、事業構造改革をさらに推進するとともに、今般、その指針となる中期経営計画を策定したものです。

2. 計画期間

2014年6月期～2016年6月期

3. 中期経営計画における基本方針

確実・安定的に利益確保できる体制の確立

成長への余力を確保

(1) 損益分岐点売上高の引き下げ

●受注減少時にも確実・安定的に収益の確保ができる体制を構築

(2) 不採算事業の見直し

●製品ごとの採算管理の徹底

(3) 価値創造型ビジネスモデルの再構築

●真空技術を核として「付加価値」を高める仕組みを再構築することで、顧客満足度を高め、収益体質・財務体質強化をめざす



代表取締役執行役員社長 小日向久治

3つの軸に沿って計画を遂行し、利益体質を強化

中期経営計画では、確実・安定的に収益確保できる体制を確立し、成長への余力を確保していくために、3つの基本方針、①損益分岐点売上高の引き下げ、②不採算事業の見直し、③価値創造型ビジネスモデルの再構築を進めていきます。価値創造型ビジネスモデルの再構築では、PMを中心に顧客ニーズと市場の動向を的確に捉えた開発計画を作っていく。そして、リスクやトラブルが少なく立ち上がりの早い製品作りをもたらす「フロントローディング」を中心に活動して価値を高めていくことを引き続き徹底していききたいと思います。

そうした付加価値向上と並行して進めていくのが、不採算事業の見直しです。製品ごと、お客様ごとの利益がどうなっているかという「利益の見える化」をきちんとやることで収益性を維持・改善します。

これらを前提とした上で、顧客業界における設備投資の大きな波に耐え、常に収益を確保していくための取り組みが損益分岐点売上高の引き下げです。特に今後は資産のスリム化を進めて利益体質を強化していく考えです。

3年後に受注・売上2,050億円、営業利益率8%へ

中期経営計画では、計画最終年度の2016年6月期には、受注高・売上高ともに2,050億円、営業利益170億円(営業利益率8%)、経常利益140億円、当期純利益110億円の達成をめざします。

目標数値の前提となる受注イメージでは、特に半導体及び電子部品製造装置が大きく伸びていく見込みです。一方、FPD及びPV製造装置については、有機ELとIGZO(酸化膜半導体)による市場活性化を受けながらも、全体としては横ばいにとどまるものと見ています。一般産業用装置は、ハイブリッド車・EVなどのエコカーによる自動車市場の設備需要に加え、医薬品市場、磁石市場においても安定した受注の確保が期待できます。

3年後の利益目標である営業利益率8%は、当期実績から見ると、一層の飛躍が求められる設定ですが、アルバック単体では、すでに損益分岐点売上高を大幅に引き下げましたし、利益体質の改善に今年度以降も取り組むことで十分に達成可能な目標であると考えています。

さまざまな取り組みを行っています。まず、昨年度人事制度を大幅に変更し、人材育成基本方針を改訂しました。社員一人ひとりが情熱や向上心をもって責任を全うし、意識改革による組織の活性化を実現させていきます。また、アルバックの60年を超える歴史の中で蓄積された技術を継承するべくエンジニア教育を充実させグループ会社の社員も参加して次世代を担う後継者の育成に努めていきます。

アルバックグループは、地球環境問題を重要な社会的課題として捉えており、2012年、新たに「アルバックグループ環境理念及び環境方針」を定めました。グループ丸となって環境配慮製品の開発に積極的に取り組んでいきます。



安定した企業体質を築き上げ、事業を持続的に発展させていきます。

Q3 CSR活動の取り組みについてはどのようにお考えですか？

「アルバックグループは、互いに協力・連携し、真空技術及びその周辺技術を総合利用することにより、産業

と科学の発展に貢献することを目指す。」という経営基本理念のもと、新生アルバックとして生まれ変わるため、

Q4 最後に株主様ならびにステークホルダーの皆様へのメッセージをお願いします。

より強固な企業体質を構築し、事業を持続的に発展

当期は、営業利益の黒字回復を果たすことができませんでしたが、一部不採算製品の見直しを実施した結果、当期純損失の計上を余儀なくされ、3期連続の無配となりました。株主の皆様には深くお詫び申し上げます。

しかし、利益体質の改善に全力で取り組んだことで、厳しい環境の中でも利益を出す力は大幅に向上しました。今後は、最終損益における黒字を確保し、株主の皆様のご期待に添えるよう努力してまいります。

また、中期経営計画を通して成長への余力を着実に確保しつつ、開発力を高め、将来の企業価値向上に向けた

基盤づくりを進めていきます。

お客様をはじめとするすべてのステークホルダー様との関係構築をより強固なものとするべく、安定した企業体質を築き上げ、事業を持続的に発展させていくことで、皆様からの信頼に応えてまいります。

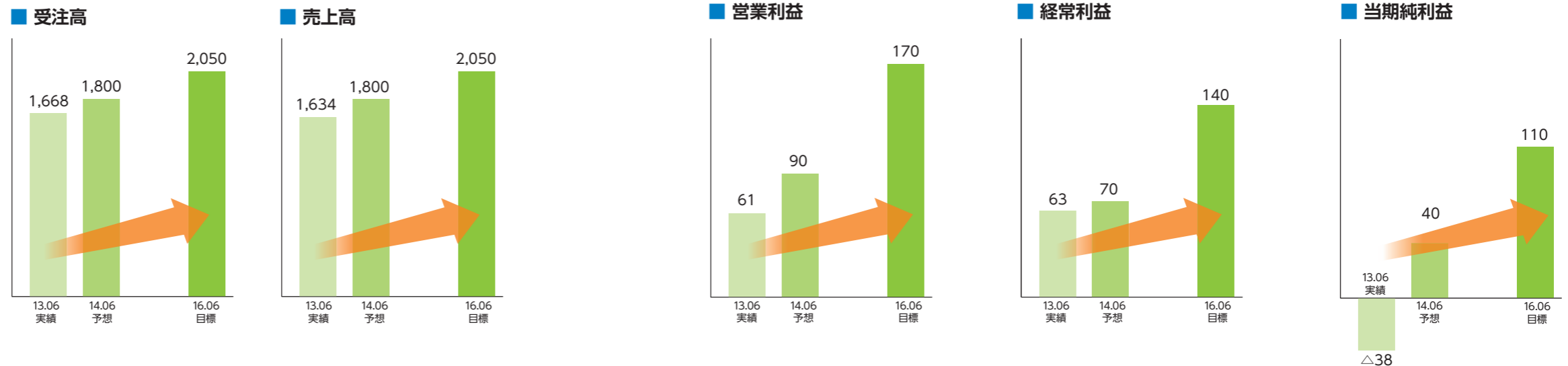
価値創造型ビジネスモデルがもたらす真空技術を核とした付加価値は、これからもますます多くの可能性を拡げ、社会の発展に貢献していくものと思われまます。アルバックが創り出していく未来にご期待いただき、引き続き一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

推進施策(事業構造改革)の概要

中期経営計画を推進するため、下記施策を実施します。

- ① 開発戦略
- ② 営業戦略
- ③ コスト競争力強化
- ④ 経費削減
- ⑤ 利益計画
- ⑥ 人事制度改革
- ⑦ スリム化
- ⑧ 業務改革
- ⑨ リスクマネジメント
- ⑩ グループ経営管理

目標数値(連結ベース)【単位:億円】



▶ 持続的な成長に向けて

アルバックグループは、専業活動に関わるESG（環境・社会・ガバナンス）テーマを認識し、技術・組織・環境の取り組みテーマに応じた活動を推進しています。

アルバックグループに関わるESGテーマ

● 地球温暖化への対応



● グローバル化への対応



● 地域コミュニティとのつながり



アルバックグループの事業

真空機器事業	FPD・PV 製造装置	
	一般産業用 装置	
	半導体及び 電子部品 製造装置	
	コンポーネント	
真空応用事業	材料	
	その他	

アルバックグループの取り組みテーマ

技術

技術特集 クルマと真空

- 自動車に貢献するアルバック技術
- アルバックブランドの向上
- 構造改革と一貫した調達活動
- グローバル事業展開
- グローバル知的財産

環境

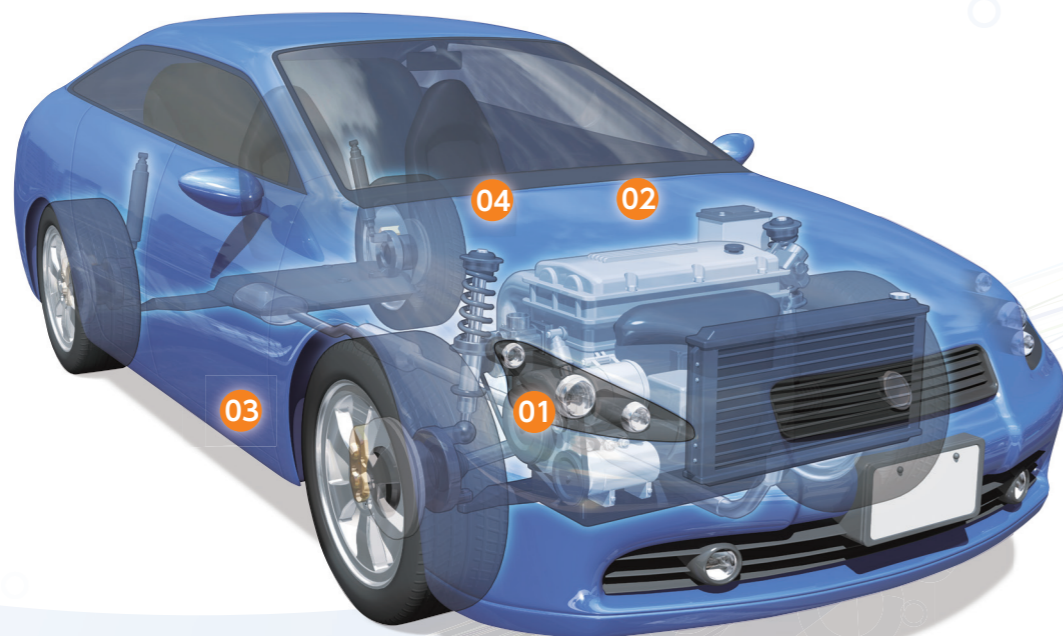
- 環境配慮製品の開発
- 環境コミュニケーション活動

組織

- 人事制度改革・教育・メンタルヘルス
- CSR社員意識調査
- 労働安全衛生
- コーポレートガバナンス／
コンプライアンス／
リスクマネジメント
- 企業市民活動

ココニモ、アル。 アルバックの真空テクノロジー。

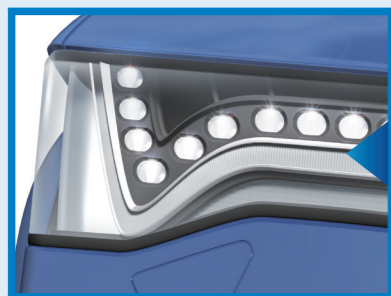
私たちが創り出すのは「真空」の世界。そのなかで私たちは、暮らしのさまざまなシーンに役立つ最先端の技術を生み出し続けています。ここでは、クルマと最先端技術に貢献するアルバックの真空テクノロジーを紹介します。



エレクトロニクスと真空

▶ Technology 01

LED ▶ アッシング装置 NAシリーズ・スパッタリング装置 SIVシリーズ



LEDとは、Light Emitting Diodeの略で、電圧を順方向に加えた際に発光する半導体素子のことです。アルバック製品は、高輝度発光LED製造のための一連のラインナップを用意しております。

▶ Technology 02

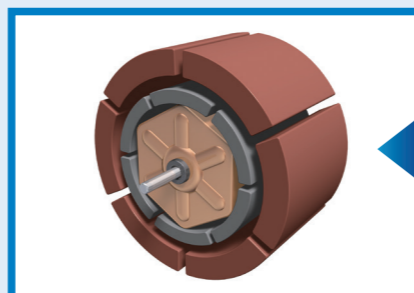
フィルムコンデンサー ▶ 巻取式真空蒸着装置 EWEシリーズ



コンデンサーは、電気を蓄えたり放出したりする電子部品で、電圧を安定させ、ノイズを取り除く役割をもちます。そしてコンデンサーの種類のひとつのフィルムコンデンサーは、プラスチックフィルムを誘導体に使い、温度による変化が少ないという特長があります。アルバックの製品は、フィルムにアルミニウムや亜鉛など材料を成膜し電極を形成するのに使われています。

▶ Technology 03

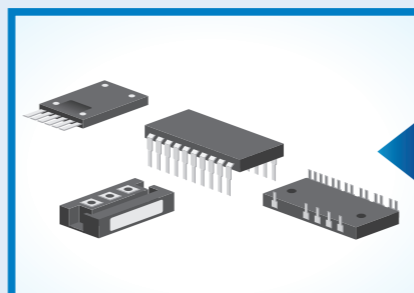
ネオジム磁石 ▶ 真空溶解炉 FMIシリーズ



ネオジム磁石は、永久磁石のなかでも最も強力な磁石といわれています。さまざまな自動車のモーターやエレクトロニクス製品に使用されており、現在ではハイブリッドカーや風力発電など環境分野でも注目されています。アルバックの製品は、磁石の材料となるネオジム・鉄・ホウ素などを決められた組成の合金を得るために使われています。

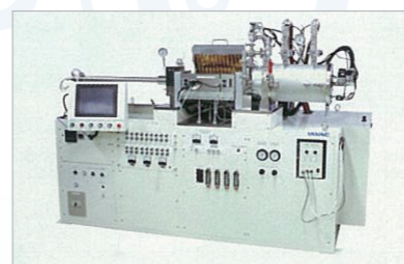
▶ Technology 04

パワー半導体 ▶ イオン注入装置 SOPHI-200



パワー半導体は、直流から交流、交流から直流に交換し、電圧を高くしたり、低くしたりする半導体の総称です。特長として電流容量・耐電圧が大きく、発熱が少なく放熱がよいということがあげられます。また、電力を効率よく制御するのに欠かせない省エネのキーデバイスです。アルバックの製品は、パワー半導体の基板となるウェーハに電極を形成するのに使われています。

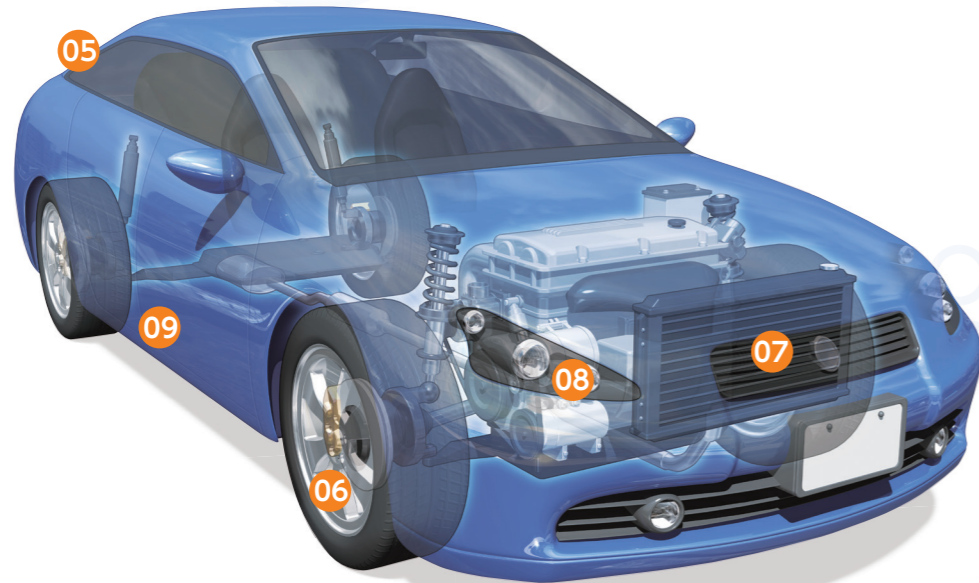
▶ 車体軽量化鋼板材料の研究開発に貢献する「薄板鋼板熱処理シミュレータ」アルバック理工株式会社



EV、PHEV、HEVに搭載する二次電池の大容量化により、電池自体の重量そのものが問題視されています。その対策の一つとして、車体ボディ材料（ハイテン鋼板）のますますの軽量化は重要なテーマになっています。ハイテン鋼板の開発で要求されるのは、プロセスの熱処理シミュレーションです。アルバック理工では、赤外線ランプ加熱により、高速加熱・高速冷却、試験片の直接温度制御、簡便な雰囲気生成などを実現し、鉄鋼材料において困難であったプロセスの熱処理シミュレーションを高精度に実現できる装置を提供しています。

薄板鋼板熱処理シミュレータ [CASシリーズ]

ココニモ、アル。アルバックの真空テクノロジー。



真空と未来の自動車開発!

Technology 05

樹脂グレーズング ▶ 自動車用ポリカーボネート(PC)樹脂グレーズング量産用新プラズマ成膜装置「ULGLAZEシステム」

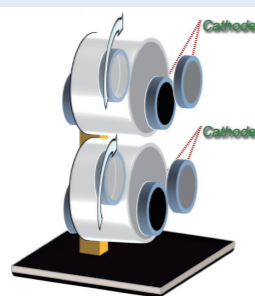


自動車の窓へポリカーボネート(PC)樹脂を用いた樹脂グレーズングを用いることで従来の窓ガラスと比較し車両の軽量化を実現し、燃費を向上させ環境に配慮した技術といえます。アルバックの製品は、樹脂グレーズングが傷つきにくくする硬化膜をつける工程に使われています。

共同パートナー：SABICイノベティブプラスチック

Technology 06

ホイール ▶ ホイール用インライン成膜装置

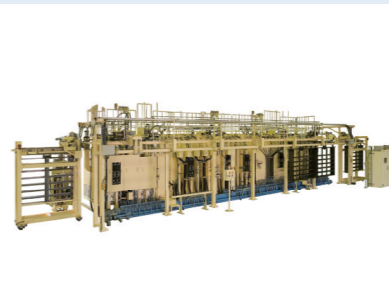


アルバックの製品は、ホイールにスパッタリング技術でクロムやニッケルクロムを成膜します。美しい外観だけでなく密着性がよいので長持ちするといわれています。また、一般的に使われるめっき技術に比べ廃水がなく環境に配慮した技術です。

ご提供：グッドリッチコーポレーション

Technology 07

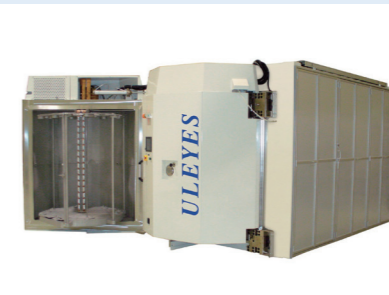
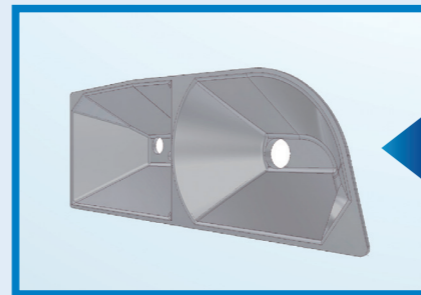
熱交換器 ▶ 真空ろう付炉FBCシリーズ



熱交換器は、温度の高い物体から低い物体へ効率的に熱を移動させる機器です。自動車用には軽量で信頼性の高いものをつくるのが大切です。アルバックの製品は、ラジエータやカーエアコンなどの自動車の熱交換器のを製造する時のろう付けに使われています。

Technology 08

リフレクター ▶ 真空成膜装置 ULEYES



自動車の安全に欠かせないのがリフレクターです。ヘッドライト、テールランプの光を反射させ自動車の存在を私たちに気づかせてくれます。アルバック製品は、リフレクターに反射膜をつける工程に使われています。

Technology 09

ガソリタンク ▶ ヘリウムリークテスト装置



自動車のガソリタンクは、安全上燃料が漏れないよう機密性の高いものをつくるのが重要です。欧米では、鉄製タンクより軽量化でき形状の自由度が高い樹脂製が普及しています。アルバックの製品は、現在主流となっている樹脂製のガソリタンクの漏れの箇所を測定することに使われています。従来の測定方法に比べて信頼性の高い測定結果を得るため、高い真空状態をつくりだし漏れ検査を行うことが可能です。

ご提供：八千代工業株式会社

▶ SABICイノベティブプラスチックの子会社とプラズマコーティング技術の量産化で技術提携



アルバックとSABICイノベティブプラスチックの100%子会社Exatec(エグザテック)は、プラズマコーティングを施したLexan®ポリカーボネート(PC)樹脂製自動車用グレーズング(樹脂ガラス)の低コストでの量産化促進に向けた技術提携を結びました。エグザテックは、業界最高の耐候性と耐久性、無機ガラス並みの耐摩耗性を実現するプラズマコーティング技術を自動車産業向けに提供しています。今回の技術提携は、アルバックの最先端の真空技術とエグザテックのプラズマコーティングシステムを融合することにより、自動車用グレーズングに従来の重いガラス窓から自動車の軽量化につながるLexan®PC樹脂の採用を加速させるもので、燃費の向上や排出ガスの削減等に貢献するものと期待されています。

※印は、SABIC Innovative Plastics IP BVの商標です。



アルバックグループの活動報告



● Management Message

QMR/EMR/総括安全衛生管理者就任に際して

Q1. 2013年7月より、3つの組織の責任者として就任いたしました。その経緯と役割を教えてください。
 2013年7月より調達センター、情報システムセンター、環境・安全部が生産本部の組織として設立されました。その役割として、第一に事業部を横断的に管理し、設計、生産管理、製造の各部門共通業務について標準化と品質改善を推進していきます。そして、アルバックグループが所有する過去のIP[®]を最大限に活動し、図面・技術資料の整理と検索システムを立ち上げる。最後に、中期経営計画でも掲げている設計のフロントローディングを積極的に推進し、製造原価・追加原価をさらに削減し収益の確保に寄与することが重要であると考えています。その中で私の役割は、それらの3部署を統括し、生産情報をより分かりやすく見える化を推進し、グループでの生産体制・会議を取りまとめ支援していくことが重要な使命だと考えています。

※IPとは、Intellectual Property (知的財産)のこと。



執行役員 平野 裕之

Q2. 中期計画でも「フロントローディングで、早期安定稼働を実現し、前向きなアフターサービスで顧客満足度を高める。」と掲げられ、特に重要な取り組みとして社内外からも注目されており。その中での品質保証部の役割と今後の目標を教えてください。
 フロントローディングは、上流での設計力の強化が重要です。特に品質保証においては、設計の前工程で徹底したリスク分析を行うことで不適合費用の発生を防ぐことが必要です。お客様のニーズにお応えするべく、技術企画室と連携をとり開発段階から、お客様のもとに納入され検収されるまでを一元管理し、顧客満足度を高めていきます。

Q3. 2012年10月、アルバックグループ環境理念及び環境方針を定めました。アルバックグループの各社の環境への取り組みで期待されることをお聞かせください。

アルバックは、環境・エネルギー分野の技術において注目されている企業のひとつです。アルバックグループはグローバルに環境経営を行う上で、環境配慮製品開発は地球の温暖化などの社会的な課題の解決に重要な役割を担っていると考えています。今後、さらなる環境配慮製品の積極的な開発をグループ一丸となって取り組んでまいります。

Q4. アルバックで、2012年度労働災害発生率ゼロを達成されました。さらにアルバックグループ全体での労働災害発生率も減少しております。今後の労働安全衛生及び製品安全の取り組みの展望についてお聞かせください。

アルバック(単体)では2012年度労働災害発生率ゼロの目標を達成することができたのも安全管理システム(OSHMS)の導入の効果が表れた結果だと考えています。今後、グループを含めグローバル統合認証[®]の導入を検討し、品質マネジメントシステム、環境マネジメントシステムと共に一貫してマネジメントすることで、品質と環境そして製品安全設計の観点からもフロントローディングを推進し、グローバルに対応できる体制を整えていきます。

※グローバル統合認証とは、グローバル化やサプライチェーン全体のマネジメントを進める為、品質、環境、安全についてグループ会社を統一基準で第三者機関にて認証を行うこと。

アルバックブランドの向上をめざして

製品の品質向上を追求しています。

アルバックグループは、品質マネジメントシステムの国際規格ISO9001の認証取得をほぼすべての製造拠点で完了し、多拠点化する製造拠点及び合併会社において高品質な製品をグローバルに生みだしています。また「アルバック品質」を維持するため、アルバックブランドの使用基準、認定制度を確立し、製造開始及び型式認定にあたって厳格なチェック体制を敷いています。

品質方針 私たちは、1人1人が仕事の品質を高め、お客様に満足いただける商品・サービスの提供に努めます。

行動指針

- ① 私達は全てのしくみ、手順を厳守します。
- ② 私達は次工程に対し不良品を出しません。
- ③ 私達は次工程に対し納期を守ります。
- ④ 私達は製造予算を守ります。

引き合い・受注段階からのリスク管理強化

フロントローディングを強化するために、営業部門、技術部門、設計部門と製造部門との技術・技能の連携、経験やノウハウの連携、知恵や閃きの連携、関連する情報・データの連携を図り、それぞれの成果を上流の開発設計プロセスに埋め込んでいく活動に注力しています。

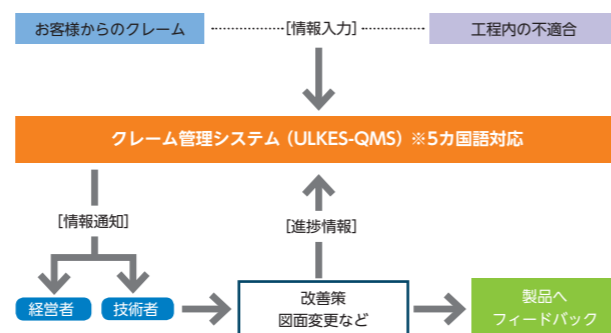
フロントローディングの本質は、研究開発・設計・製造・保守などのづくりの全ライフサイクルにおける異質の要素を結合し全体最適を実現することであり、そのための仕組みの見直しを進めています。

品質情報に基づく迅速な改善

クレーム管理システム (ULKES-QMS)

アルバック及び製造拠点間のすべての品質不適合情報は「クレーム管理システム」にて一元管理し、グループ内で情報を共有できるようにしています。このシステムは、2013年度から新たな品質管理システム「ULKES-QMS」として稼働を開始しました。茅ヶ崎本社・工場や製造分担工場における工程内の担当者、期日を明確化するとともに、製品納入後にお客様より寄せられたクレームについても同システムで処理されます。重大なクレーム情報は「重大クレーム」として、毎月業務会議（社長及び部署長が毎月参加する定例会議）にて報告され、その対応についてトップダウンで協議、決定しています。

クレーム管理システム (ULKES-QMS)



お客様に満足、安心していただける品質管理体制

アルバックの品質マネジメントシステムのコンセプトとして、リスク分析とフィードバックがあります。開発設計段階からの流れに沿ってリスクを特定、さらに対策アクションを「リスク分析シート」にて特定、品質不具合を予防していきます。また、製造工程及び出荷納入後に発生した問題は「クレーム管理システム」より収集されたデータから「フィードバックリスト」として

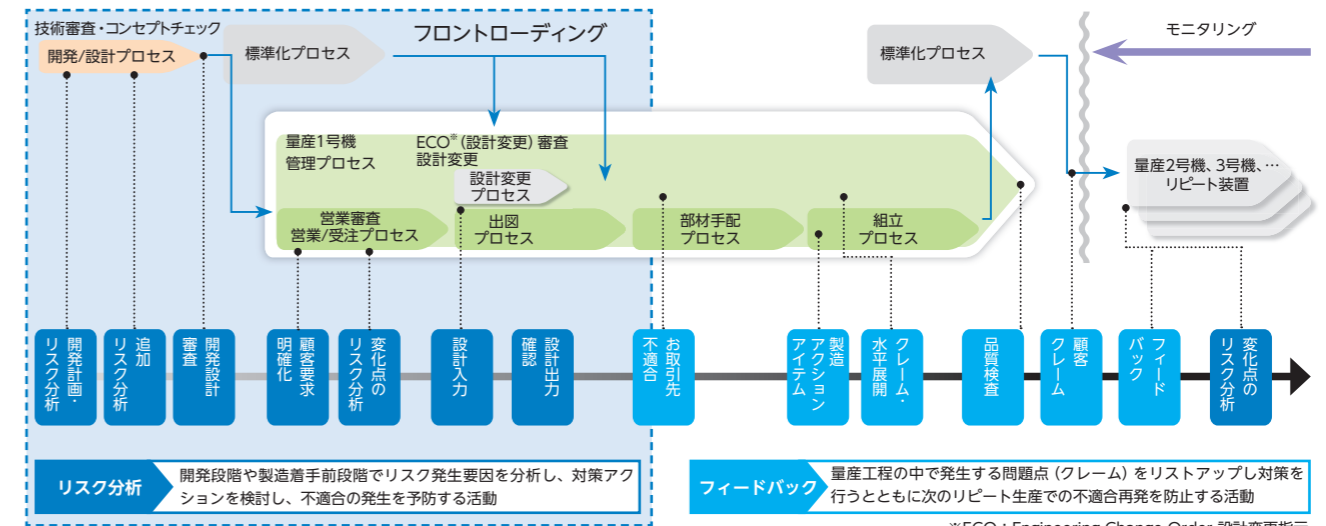
リスト化し、各段階でフィードバックをしていきます。なお、これらについては出荷段階での品質検査にて厳格な検査を行っています。このようにして、最新技術を反映した製品をタイムリーに提供し、お客様の生産活動へスピーディに貢献できることをめざしています。

追加コスト (不適合費用) 削減

開発設計段階からのリスク分析、クレーム情報からのフィードバック、また上流設計力の強化などさらなるフロントローディングの推

進により、2013年度の追加コスト(不適合費用)を2012年度から約10%削減することを目標としています。

開発設計の流れに沿った品質保証体系コンセプト



アルバックブランドのグローバル化

アルバックグループ製品は、製品ごとの型式登録から、販売商流の明確化と製品ごとのアルバック商標の使用基準に対する適合性、各製品・各製造拠点での品質・環境・安全・有害物質等の管理体制等の仕組みに加え、知的財産の保護や技術流出予防措置等を含むチェックリストに基づく評価を行い、常勤役員会の審査、

承認を受け、その基準を満たした製品のみ製造及び製造、販売が許されます。それらをアルバックグループ製品の製品・製造・販売マトリクスとして維持管理しています。このような厳格な制度を通じてグローバル化に対応した「アルバック品質」を世界中にお届けしています。

品質保証部門のグローバル拠点化

アルバックグループ各製造拠点の品質検査及び品質システム運用について品質保証部門の拠点化が完了し、運用が定着しました。アルバック、アルバック東北(株)、アルバック九州(株) (以上日本)、ULVAC KOREA, Ltd.、ULVAC TAIWAN Inc.、愛発科(中国) 投資有限公司の各拠点における品質検査について、統一

基準に基づきアルバックにて認定された品質検査員が各拠点にて自立した品質管理、品質検査体制をグローバルに展開しています。また、生産委託に関連する品質上の取り決めについても各社にて自立した内部監査を実行しアルバック及び各社間で相互間改善の取り組みをできるような連携体制を構築しています。

海外での品質検査の風景



愛発科(中国) 投資有限公司



ULVAC KOREA, Ltd.

構造改革と一貫した調達活動

3S、グローバル生産、コストダウン推進活動

昨年度の構造改革に伴う、3S、グローバル生産（調達）、コストダウン推進活動を2013年度も継続し、サプライヤー様との新たな共栄・共存の関係を構築し、アルバックの収益改善に取り組みます。

1. 3S（単純化、共通化、標準化）

アルバックの製品に対する3S活動（単純化、共通化、標準化）を推進し製品のコスト競争力を向上させます。調達部門が事業部の生産活動に積極的に関与し、ものづくりの後工程での活動から前工程における先行型のコストダウン活動を行います。

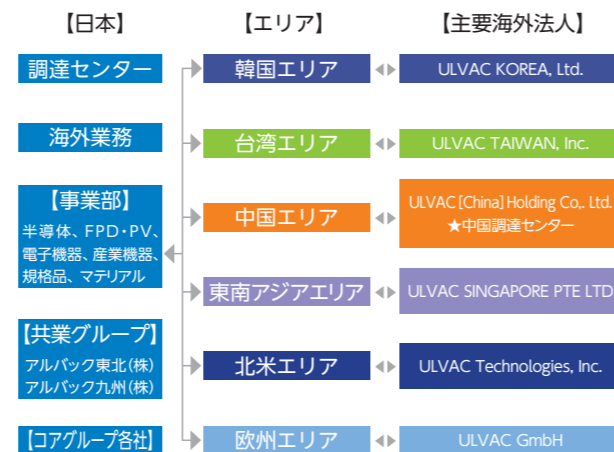
2. グローバル生産（調達）

海外調達比率を向上させ部品のコストダウンを推進します。特に中国エリアでは、昨年度、蘇州（USZ）から上海（UCH）へ活動の場を移した中国調達センターと連携して、さらなる中国調達を進めます。また、アルバックグループ調達部門長会を開催し、グローバルにおける情報の共有化と海外調達の最適化を図ります。

3. コストダウン

3Sやグローバル生産（調達）に加え、部品の購入方法を見直し、預託在庫方式やまとめ発注方式によりサプライヤー様が計画的に生産していただける体制を構築します。また、継続して業務内容を見直し、無駄な作業を排除した抜本的な業務改善により固定費を削減します。

■ グローバル調達の組織・体制



コアグループ：日本リライアンス（株）、アルバック成膜（株）、アルバック理工（株）、アルバック機工（株）、アルバック・ファイ（株）、アルバック・クライオ（株）、（株）昭和真空、アルバックテクノ（株）、アルバック販売（株）

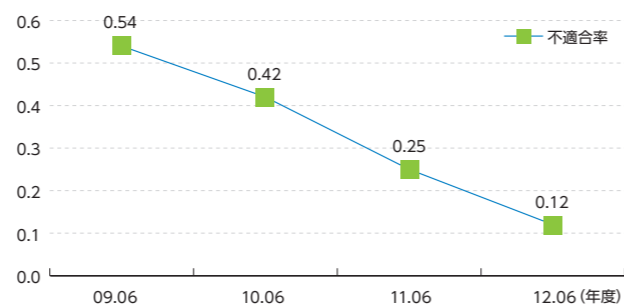
品質認定サプライヤーとともに作るアルバック品質

高い品質の維持・体制強化を進めます

品質認定サプライヤー制度は、国内外問わず世界のどここのサプライヤー様からも同じ品質をご提供いただくことをめざして、国内では2010年度よりスタートし、2012年度には国内における品質認定サプライヤー制度の品質基準である不適合率を順調に下回る結果となりました。これは、アルバックの改善活動をご理解いただいたサプライヤー様の甚大なご協力を得られた成果です。また、アルバックの海外拠点に対しても改善活動の展開をスタートさせ、韓国アルバック、アルバック台湾、アルバック蘇州の評価をはじめ成果が表れ始めています。

2013年度以後はさらに品質を高め、受入検査の簡略化を推進します。品質認定サプライヤー制度により、サプライヤー様から同一品質の安定供給が可能となり、アルバックにおける受入検査の効率化が進み後工程へのスループットが大幅に改善されます。

■ 年度別不適合率（％）



「紛争鉱物問題」への対応

アルバックグループでは、これまで法令の遵守や公正で自由な競争の維持促進、取引先との健全で良好な関係等について「アルバックグループの調達基本方針」を掲げてまいりました。今年度、取引先の皆さまとさらなるパートナーシップの構築とサプライチェーンとして社会的責任を果たすことを目的に、紛争鉱物問題への対応を含めた下記の9項目を新たに掲載し皆さまにお願いさせていただいております。

1. 法令・社会規範
2. 公正な取引と企業倫理
3. 人権尊重と労働・安全衛生
4. 製品・サービスの安全性・品質
5. 情報セキュリティ
6. 環境保全
7. 適正な価格・納期の実現
8. 技術力の向上
9. 健全で安定した企業経営

1項の法令・社会規範で取り上げている紛争鉱物については下記を参照ください。

【紛争鉱物】

アフリカ・コンゴ民主共和国及び近隣国での鉱物の中で、その採掘や取引が武装集団の資金源となっており、あるいは人権侵害、労働問題等の根源になっているものを「紛争鉱物」と呼びます。2010年7月に米国で成立したドッド・フランク法により、米国の株式公開企業はこれに該当する鉱物の製品への使用状況について

報告書の提出と開示が義務付けられました。アルバックグループにおいては、紛争鉱物に関する取り組みを企業としての社会的責任ととらえ、不正な資金、または非合法的な方法により採掘・採取された紛争鉱物を使用した原材料、及びこれらが含有される部材・部品等の不使用に向けた取り組みを行ってまいります。

モーダルシフトの実践

従来の航空輸送を鉄道輸送とフェリー輸送へシフトすることにより、物流コスト削減とCO₂削減を実現しました。

具体的にはアルバック茅ヶ崎・本社工場から韓国グループ法人向けに門司港までJR鉄道輸送し、門司港からは韓国釜山港までフェリーを使用する物流手段に切り替えました。さらに航空輸送

に匹敵するタイムスケジュールの輸送が可能です。

特にCO₂削減効果は航空輸送対比で97%と大きく環境負荷低減に貢献することができました。今後も、モーダルシフトを継続して推進していきます。



門司港に到着したJR鉄道のコンテナ



コンテナ内の積荷の様子

地域に根ざしたアルバックグループのグローバル事業展開

真のグローバル化とは、日本本社の視点のみならず、グループ会社とりわけ海外に拠点を持つ海外現法の強みや意見、市場ニーズを取り入れた双方向での事業戦略が必要です。アルバックグループは優れた技術を持つ会社や所在する国・地域で強力な営業基盤や生産体制を持つ会社が多数あります。グループの総力を結集できるようにそれぞれの会社の特徴を連携していける仕組みを構築し、グループ全体の総合力を結集し、アルバック製品を通じてグローバル展開するアルバックユーザーへのご期待にこたえとともにグループ会社の人々の楽しく豊かな生活に貢献していきます。

1 ▶ 【ULVAC KOREA, Ltd.】【略称 UK】金善吉 専務理事

1995年設立したULVAC KOREA, Ltd.は2001年に韓国国内で最初にLCD Sputter装置の国産化を始め技術Engineerの育成、核心部品の国産化調達、TargetのBonding、表面処理、洗浄加工及び迅速なアフターサービス体制などのInfra構築を確固にして真空技術が要求されるすべての産業分野装置の生産が可能であり、韓国のみならず海外の顧客まで Total Solutionを提供しています。顧客との緊密なCommunicationを重視した近接対応体制の定着で高品質の低価格装置を提供し、超材料研究所を重心として広がるCIP(Continuous Improvement Program)活動で、顧客の既存装置の持続的な改善・改造を通じて生産性及び歩留り向上を最大の目標とするアルバック提案活動を定着し、顧客満足のため最善を尽くしています。そのうえ協力会社への技術指導を通じて品質向上、雇用と売上及び利益を生み出す効果の増大で相生と同伴成長を図っています。



2 ▶ 【ULVAC TAIWAN, Inc. 台南工場】【略称 UTI】陳慶峰 協理

ULVAC TAIWAN, Inc.の台南工場は、アルバックグループ生産の一員として、FPD、電子部品、半導体業界中心に、装置製造から、製作部品の供給、現地のアフターサービスを行い、日本製と同等の品質、スピーディな対応でお客様に高く評価されています。経験豊富なスタッフによる、高品質、低コストの製造力を日本国内/中国/東南アジアに地理的や言語上のメリットを最大限に活かし、受注拡大、グローバル生産を支えられたグループの最精鋭の生産拠点として努めています。



3 ▶ 【愛発科豪威薄膜光電(深圳)有限公司】【略称 UOT】庄副總經理

我々、愛発科豪威薄膜光電(深圳)有限公司は、2009年4月にULVACとHIVACとの合併で設立したタッチパネル製造向けのインラインスパッタ装置を生産しています。タブレットPCやスマートフォンといった情報コミュニケーション手段が破竹の勢いで人々の生活の中に浸透してきています。我々はULVACの先端技術と中国での旺盛な需要とをマッチングさせて、少しでも安コストでインラインスパッタ装置を市場に送り出そうと日々取り組んでいます。私は、このUOTの技術製造部門を統括する責任者として、生甲斐に溢れる毎日を送っています。



4 ▶ 【愛発科東方真空(成都)有限公司】【略称 UCD】王洪軍副總經理

アルバックとCDOIとで合併設立以来、愛発科東方真空(成都)有限公司は、「業界品質NO.1、業界サービスNO.1、業界シェアNO.1」という経営理念のもとで、新規業界への挑戦と国際市場の開拓に取り組んでいます。新規業界への挑戦ですが、例えば、気密分野の技術専門性を十分に発揮し、アルバック品質の自動車ホイール、給湯器、バルブなど全自動リークテスト装置の開発に成功しました。こういう展開を通じて、不景気に陥っている制冷業界への売上減少を補って余りある状態にしています。次に、国際市場の開拓ですが、アルバックの世界中の営業サービスネットワークを十分に活用。本社と海外グループ会社のサポートを通じて、UCD自身の設計・製造によるコストメリットを活かして、東南アジア、北米、南米などの地域まで販路を拡張しました。2012年海外受注は全社受注の約30%を占めています。また、2012年の売上は2003年の10倍にまで成長しました。



5 ▶ 【寧波愛発科真空技術有限公司】【略称 UNB】陳昌杰副總經理

寧波愛発科真空技術有限公司は、1995年9月に設立した日中合弁企業である。主な製品は、油回転ポンプ、ルーツポンプ、ドライポンプ、ピストンポンプ、真空計、真空排気セット、オイルミストトラップ、油水分離機、油浄化機等。機械加工と組立の経験から日本より低コストで生産が可能です。アフターサービスも速く、厚い顧客層を基盤に更に発展する空間がある。自主開発の能力向上によりお客様に競争力のある製品とサービスを提供しベストを尽くしてアルバックに貢献することは、UNBの目標であり、私の誇りです。



6 ▶ 【愛発科中北真空(沈陽)有限公司】【略称 USY】王士華總經理

アルバック中北真空(沈陽)有限公司は、アルバックと中北真空との合併で2005年に設立し、完璧な加工組立と検査設備を持っています。真空溶解炉、真空焼結炉、真空ろう付け炉、真空熱処理炉等真空設備を専門に生産しています。アルバックの管理と品質システムを使い、中国国内はもとより海外にまで幅広く、産業の基盤を支える製品を世の中に送り出せる喜びでいっぱいです。我々は、引き続き、先進的な真空炉と優秀なサービスを提供するために努力しています。



7 ▶ 【愛発科真空技術(蘇州)有限公司】【略称 USZ】顧志成副總經理

発展が激しい半導体、ディスプレイ、フラットパネル、電子機器設備の市場では、海外競合会社の他に、中国国内メーカーとの競合も熾烈になってきている。こうした中、高品質、低コスト及び優れたアフターサービスを提供できることが顧客に満足してもらえる基本である。私達は、アルバックの先進的な技術及び管理能力、中国国内の市場の厚さと低い生産コスト、全国のアフターサービス拠点などの優位性を以って、積極的に将来向けの製品を開発して市場を獲得したい。中国アルバックグループ各社の設計、製造、大型装置生産、精密機械加工などの特長の組合せによって、高品質、低コスト、優れたアフターサービスを最大限提供して行きたい。



■ 中国蘇州大型FPD・PV製造装置生産工場概要

場所：江蘇省蘇州市蘇州工業園蘇州東路277号、愛発科真空技術(蘇州)有限公司内
愛発科真空技術(蘇州)有限公司敷地内に真空製造装置に対応した工場建設、2011年に稼働しお客様のニーズに応えるべくアジア地域のグローバル化に対応しています。

VOICE

アルバックグローバル化の要：グローバル生産企画室

グローバル生産企画室 企画推進部のメンバー

グローバル生産企画室企画推進部は、2013年度より新たに発足した部署です。第一の役割はグローバル化する市場と各地に展開している製造・販売拠点を有効に活用し、アルバックグループの事業を最大化することにあります。私たちは、今後発展が期待される新興国市場への展開戦略を立案し、日本のメーカーとして国内生産も含めたグローバルなモノづくりと製品展開について総合力を発揮できるしくみや制度の見直しを行っていきます。また、各事業部門と積極的に協力し、各事業部製品に対する戦略・方針を導いていきます。



アルバックグループのグローバル知的財産

アルバック知的財産のグローバル(アジア)戦略

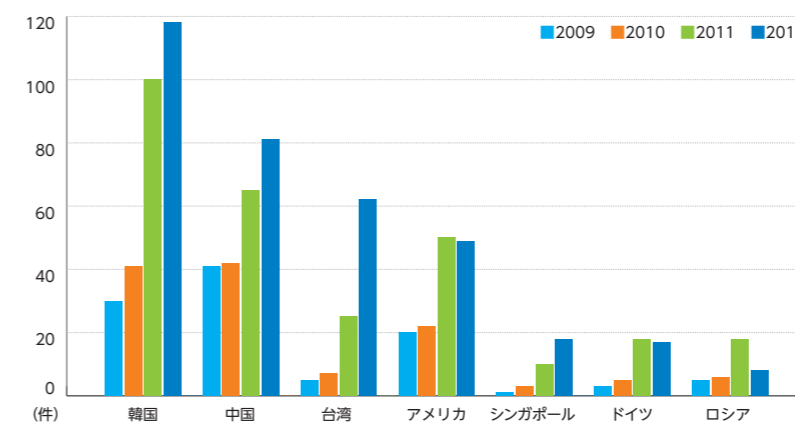
アルバックグループの2012年度は、国内の特許出願317件、海外への特許出願件数は271件となりました。登録された特許も、国内特許で572件、海外特許は400件となりました。特に、海外での特許取得が進んでいます。

一方で、知的財産権をめぐる諸問題もグローバルとなり、アジア各国における知的財産権をめぐる事件がメディアにも多く取り上げられてきています。アルバックグループではグローバル経営を支える技術を保護するために、海外出願を積極的に進めています。昨年度の海外特許の登録国別割合は、アジア、特に韓国、中国、台湾といった、アルバックの主要顧客の国での権利が70%を占めるようになりました。お客様からの技術的

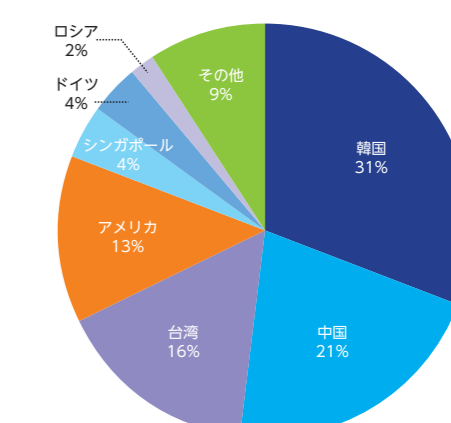
ニーズに応える一方で、お客様に安心してアルバック製品を利用していただくために海外での特許出願と権利化を積極的に進めてきた成果です。

今後、先端技術はアジアを中心にグローバルな開発競争が加速され、知的財産権の争奪は重要な経営資源の確保として重要視されています。アルバックでは、効率的な特許出願と質の高い外国出願を目標にして、2013年度は、主力製品に対する特許出願を推進します。また、事業計画との関連性を評価し、販売計画、マーケティング情報をもとにした外国出願の選定なども行い、さらなる知的財産権の強化を進めていきます。

■ 主要国における特許登録件数の推移



■ 2012年度(2012年7月1日~2013年6月30日) 外国特許登録の国別割合





※茅ヶ崎市行谷付近、4年目になる田んぼプロジェクト実施場所

環境

▶ Environment

地球環境に貢献するアルバックグループの取り組みとして、環境配慮製品の紹介やさまざまなグループの取り組みを紹介します。

▶ アルバックグループのグローバル環境経営

アルバックグループは「省エネ・省資源・環境保護に貢献できる商品の提供」という環境方針のもとお客様の手元で最大限の環境貢献ができる製品の開発、製造に力を入れています。一方、事業活動を行う中で消費するエネルギー、排出する廃棄物の管理を徹底的に行い事業活動の中から発生する環境負荷を最小限にするよう配慮しています。

2012年度、アルバックグループは環境事故ゼロの目標の下、日頃からの管理を徹底し、グループ会社間の情報の共有を綿密に行うことで地域社会に影響を与えるような大きな環境事故を発生させることはありませんでした。

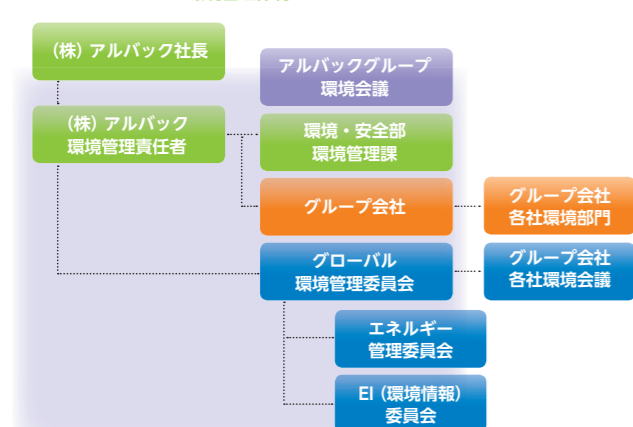
今後も、アルバックグループは製品を通し環境に対する貢献を進めながら、環境負荷の削減を図っていきます。

アルバックグループの環境経営

アジア地域を中心に、欧米、中南米等幅広い地域で展開し、グローバルな生産体制をもつアルバックグループは、グループ間の情報の共有、トップマネジメントによる指示の素早い展開などを確実に実施する必要があります。そのため、定期的に「グローバル環境管理委員会」という主要なグループ会社を一堂に集めた会議を開催し

環境に対する各種課題の報告・審議を行います。一方で重大な環境事故を未然に防ぐため、グループ会社各社の環境担当者が環境インスペクションという推進活動の点検を定期的に行っています。アルバックグループはソフトとハードの両面から環境経営を進めていきます。

■ アルバックグループ環境管理体制



● アルバックグループ 環境理念

アルバックグループは、地球環境の保全が人類共通の重要課題のひとつとして捉え、事業活動のあらゆる面で環境の保全に配慮し、住みよい地球と豊かな社会の発展に貢献します。

● アルバックグループ 環境方針

- 省エネ・省資源・環境保護に貢献できる商品の提供
1. 製品（アルバックグループ製品・最終製品）の省エネ・省資源・環境保護
 2. アルバックグループ製造プロセス（工程）における省エネ・省資源・環境保護

▶ 環境配慮製品

アルバック・ファイ(株)

消費電力低減：X線光電子分光分析 PHI X-tool

X線光電子分光分析（XPS；X-ray Photoelectron Spectroscopy、またはESCA；Electron Spectroscopy for Chemical Analysis）法は、固体表面にX線を照射することにより表面の深さ～10nmから放出される光電子のスペクトルを測定し、表面の組成並びに化学結合状態に関する情報を得る手法です。XPSは、表面分析の中で最もポピュラーな分析手法で、特に表面処理（接着、易滑、離型、転写）、表面異常（汚染、変色、腐食、偏析、異物）、触媒（排ガス、燃料電池）、薄膜（ディスクメディア、太陽電池）等を含む、高性能材料、デバイスの表面化学分析に広く利用されています。

PHI X-toolは、当社のXPS装置のラインナップのひとつで、独自の走査型X線技術を搭載し、20um以下から数mmに至る分析面積を自在に選択して、試料に応じた条件でフレキシブルに分析することが可能です。従来装置と比較して、機能を絞り、初心者

でも簡単に分析することができタッチパネルで一連の分析を行えるよう設計されています。また、最新のエレクトロニクス技術を採用し、消費電力を抑制、超高真空技術に不可欠なベークングという操作も極めて効率良く行うことが可能となりました。

さらに従来装置と比較して、通常操作時、ベークング時ともに1.6kW以下（@200V）という驚異的に少ない消費電力を実現し、主プレーカーを50Aから20Aへ変更して、お客様の電力抑制にも貢献することが可能な環境に優しい装置です。



PHI X-tool

田んぼプロジェクト

快晴に恵まれた5月25日、今年も田んぼプロジェクトが元気にスタートしました。4年目を迎える田んぼプロジェクトですが、年々参加者が増え、第2弾イベントの自然観察会では100名を超える参加者が集まり、今までにない賑わいをみせました。地元の情報誌タウンニュース様にも取り上げていただき、社内問わず田んぼプロジェクトの活動がより広く知られるようになっていきます。

Voice



参加して数年がたちますが、年々田んぼの面積は増え参加人員も増え、子供や学生、NPO、有志の皆様などが集まり、今この瞬間にしか作れない場やその力、といったものがようやく生まれつつあるように感じます。地主さんの献身的な努力があって成り立っている活動かもしれませんが、及ばずながらも参加を続けさせていただきたいと思えます。（ERP室 菊地次郎）

Photo Diary



田んぼプロジェクトに参加した長谷川黎君の絵日記



● アルバックグループの環境への取り組みの詳細が確認できます ▶ <http://www.ulvac.co.jp/csr/>

TOPICS

アルバック東北(株)

工場緑化・優良工場として受賞

アルバック東北(株)は2012年11月1日に、緑化優良工場として「財団法人日本緑化センター会長賞」を受賞しました。当法人は経済産業省の関連法人で、権威のある組織からの受賞といえます。アルバック東北(株)は、青森県八戸市に本社・工場を構え、工場敷地12haに占める緑地は4ha以上で、主なものは樹齢約80年の南部アカマツの自然林、各工場の花壇群、構内桜並木、そして南門の両側に配した全長約100mの花壇などです。毎年これらの手入れのほか、敷地境界沿いの草刈りも実施して工場景観をきれいに保つことに努めています。緑地が広く、維持管理は大変ですが、変化に富んだ地形と四季折々の緑地景観が見る人の心に感動を与えてくれます。そのことを励みとし、アルバック東北(株)は緑化優良工場としてさらなるステップアップをめざしていきます。



緑豊かなアルバック東北(株) (南門からの景観)

ULVAC TAIWAN INC.

南部科学工業団地における「希望の森」の植樹活動

2012年3月27日、南部科学工業団地管理局主催の「希望の森」の植樹活動が台南科学工業団地で行われました。当日は、約500人の参加者が苗木を植樹しました。ULVAC TAIWAN INC.からは魏雲祥副総経理をはじめ、台南工場の社員が活動に参加しました。台湾の行政院農業委員会林務局の研究資料によると、地球上で木を1本植えると、1年間で12kgのCO₂を減少させると言われています。将来、台南科学工業団地の「希望の森」において、約4,000本の松を植樹し、年間4.8tのCO₂を減少させることを目標としています。この活動へ継続的に参加することにより、温室効果ガス削減に貢献し、企業の社会的責任を果たしていきます。



アルバックグループの環境パフォーマンス

アルバックグループは、国内外のグループ会社で事業活動を展開しています。各社では、省エネルギー、省資源について積極的な活動を行い効率のよいエネルギー使用、資源の利用を行っています。エネルギーの効率的な使用については今後も厳しく要求されることから、アルバックグループでも無駄のないエネルギー使用をめざしていきます。

2012年度のアルバックグループの推移

2012年度、アルバックは構造改革を進める中で3S+1D(Simple, Same, Standard + Difference)を強力に進めました。生産・開発で使用するエネルギー、ユーティリティ、化学物質等についても同様に、効率的な使用をめざしアルバックグループ各社は、従来の使用方法を見直しました。

電力の使用量は集計対象となる会社の増加(3社、全体に対する割合約2%)はありましたが、前年度と比較約2%の削減となりました。これは、各社の省エネ活動の積み重ねによるエネルギー削減の結果が大きく寄与しています。また、その他のエネルギーの使用量についても軒並み10%以上の削減となっており、エネルギー管理を徹底した事による効果が表れております。

- 各社の省エネルギー活動紹介**
- ・ 温水配管の断熱対策と設定温度管理の徹底及び運転の間引きによる空調・熱源管理の見直し【重油使用量 32%削減】(アルバック東北(株))
 - ・ 高効率のLED電球へ更新し照明エネルギーを66%削減 (ULVAC CLEAN PRECISION TECHNOLOGIES CORP.)
 - ・ ユーティリティの稼働管理によるエネルギー消費削減 (アルバックグループ各社)

なお、2012年度はCO₂の排出量が増加しました。これは、当社の計算の基準としている東京電力のCO₂排出係数が上昇したことによる影響であると考えられます。

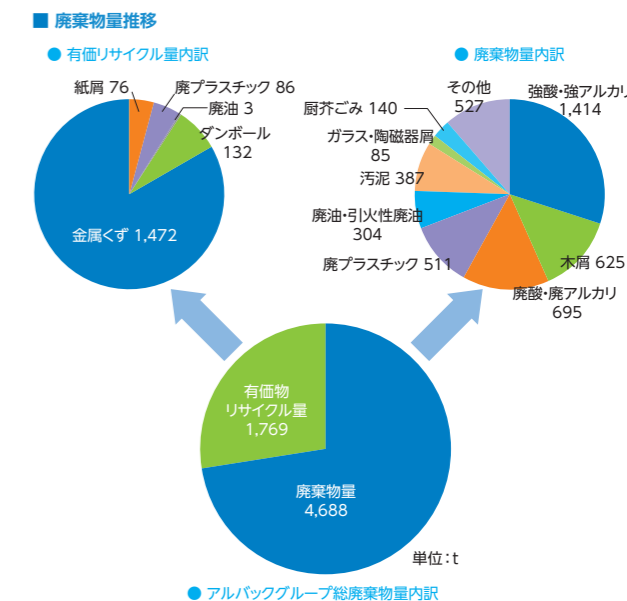
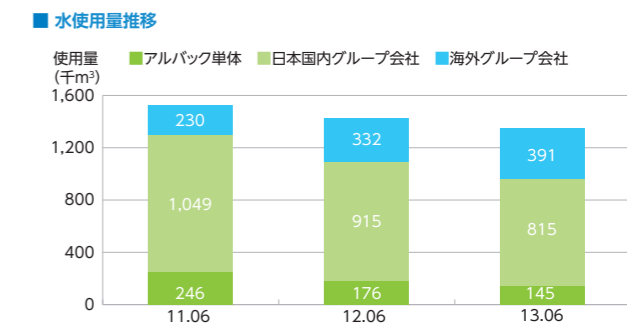
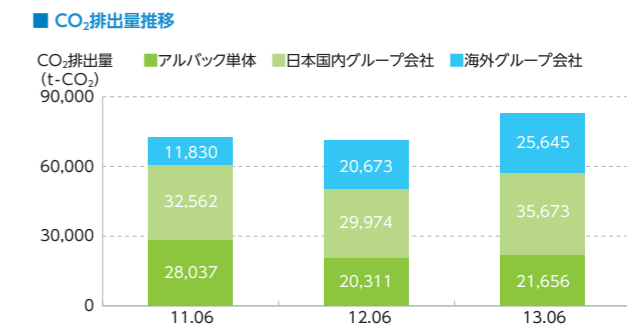
一方、廃棄物総量は前年度と比較約45%の削減となりました。昨年度は、年度末に構造改革の一環として多くの資産を売却したため、廃棄物の増加となりました。2012年度はそのような特殊な事情が生じなかったため、廃棄物総量並びに再資源化率ともに前年と比較し良化しました。現在、アルバックグループでは廃棄物について、再資源化並びに有価リサイクルを進めることを目標とし活動を行っております。2013年度も引き続き本活動を進めていく予定です。

- 各社の廃棄物削減活動紹介**
- ・ 廃棄物の分別を見直し、有価売却可能な品目を増やすことで、廃棄物総量の圧縮を実施(アルバック)
 - ・ 事務室及び現場、工場の外郭等、全ての区域にて廃棄物の保管基の見直しを実施。全社員向けの教育を継続的に行い、管理状況を確認するためのパトロールを実施 (ULVAC KOREA, Ltd.)
 - ・ ボンディングで使用する材料を回収しリサイクル化を実施 (ULVAC MALAYSIA SDN.BHD.)

アルバックグループでは事業活動から起因する環境負荷の低減に努め全社を挙げて今後も引き続き環境管理活動を進めていきます。

マテリアルバランス (アルバックグループ)

INPUT	
⚡ 電気使用量 156,750 千kWh	🛢️ 燃料使用量 A重油 612 kL 灯油 33 kL 軽油 99 kL
🔥 ガス使用量 LPG 180 t LNG 687 t 都市ガス 1,625 千m ³	💧 水使用量 1,350 千m ³ 📦 梱包材 2,103 t



OUTPUT

CO ₂ 排出量	82,974 t-CO ₂ 電気・ガス・燃料の使用により発生
● 廃棄物総排出量	6,457 t
● 有価リサイクル量	1,769 t
🔄 再資源化率	96.3%
🚚 輸送に関わるCO ₂ 排出量	1,488 t

※本データは主要なアルバックグループ41社のデータ作成しています (前年度比4社増加)。※梱包材の使用量はアルバックグループ25社のデータをもとに作成しています (前年度比2社増加)。※輸送に関わるCO₂排出量はアルバックグループ3社のデータをもとに作成しています。



組織

▶ Organization

価値創造型ビジネスモデルの再構築のため、自らが変わり会社を変える必要があります。新生アルバックを支える人材が最大限に力を発揮するための仕組みをつくります。

▶▶ 努力と成果に報いる人事制度により 個人と組織の活性化へ

アルバックは事業構造改革の一環として従来の人事制度を大幅に変更しました。社員が利益志向を共有し、全員がベクトルを合わせていけるよう、報酬体系と評価制度を見直しています。

人事制度改革を実施

～意識改革による個人、組織の活性化～

当社は長らく年功序列を基調とした人事制度を採用してきましたが、事業構造改革をきっかけとして、「頑張った人が報われる人事制度」への方向転換を図りました。具体的には、給与、賞与といった報酬体系やそれを支える評価制度の抜本的な見直しを行いました。

年齢にとらわれることなく、役割や業績・プロセス・成果の反映度をアップさせた報酬体系とし、より公平性、公正性の高い制度にしました。同時に従業員には、一人ひとりが情熱や向上心をもって各自の責任を全うすることを求め、意識改革による個人、組織の活性化を実現します。

評価制度においては、結果のみを重視するのではなく、「困難な課題に積極果敢にチャレンジすること」や「チームで仕事を進めること」がより高く評価される制度運用を行い、開発型企業として失ってはならない自由な発想や失敗を恐れない企業風土は今まで通り大切にしていきたいと考えています。

人事制度改革と並行して、教育の機会を増やすことに注力してい

ます。2012年度は人材育成基本方針を改定し、今のアルバックに求められている人材像を明確にしました。新入社員から幹部社員まで、全ての階層を網羅した教育を行い、教育を通して会社がかかえる課題・問題点を洗い出し、一人ひとりが会社から求められる役割を認識・実践できるよう教育体系の整備を進めています。

また、次世代育成・ローテーション制度の推進も組織活性化には欠かせない課題と認識しています。スペシャリストとゼネラリストのバランスに配慮しつつ、積極的な人材交流を行い、柔軟な組織運営に取り組んでいます。



人事部長
鈴木 智靖

人材育成基本方針 (2012年度改訂)

1. 個人を尊重し互いに信頼し、責任を全うする人材
2. 本質を見極め、情熱と執念で革新的技術・企画を創出する人材
3. 向上心に富み、目的達成に向けて自主的に行動する人材
4. グローバルな視点を持ち、世界を切り拓くリーダーを目指す人材

エンジニア教育

～技術の蓄積と共有、そして伝承～

2013年1月より技術系社員を対象としてエンジニア教育を実施しています。エンジニア教育の目的は「技術力の強化を目標とした基礎技術(普遍的な原理、試行錯誤して得た知識、コア技術、常識)の習得」「技術の蓄積と共有、そして伝承を実現するための後継者の発掘と育成」となります。テーマとなる技術に深い造詣があり、豊富な知見のある社員が講師を担当します。広く社内で蓄積されているノウハウ・技術を資料にまとめ、教育を実施することで、各個人に蓄積されている技術が伝承されないまま散逸してしまうことを防止する役割を担っています。

教育テーマは年2回行われる緊急技術課題報告会であげられた報告内容を参考に、トラブル事例等から緊急度、重要度の高いものを選定しています。

この教育は基本的に月に1回、時間は1時間とし、2013年1月から7月末までに7回開催しました。グループ会社も合わせて、多い時

には250名を超える社員が受講しています。

エンジニア教育は技術系社員にとって基礎の基礎の教育ではありませんが、これを始めとして、技術企画室・品質保証課と連携して社員・グループ社員全員が技術の蓄積と共有ができる場所、仕組みを構築し、次代を担う後継者の発掘と育成につなげていきます。



技術者に向け講義をする中村技術顧問

メンタルヘルス教育

～セルフケア～

メンタルヘルス教育はこれまで入社時・昇進時などの階層別教育が中心でしたが、全社員が任意のタイミングで受講できるセルフケア教育を開始しました。現在、セルフケア教育では、傾聴・認知・アサーションをテーマとして実施しています。参加者の学びの向上に重点をおき、1回30人を上限とした少人数制でワークを中心に行っています。参加者からは、「職場ミーティングで活用できそう」「仕事やプライベートでも活かせる」といった好評の声をいただいています。



メンタルヘルス教育風景

海外インターンシップ

アルバックでは毎年海外の学生をインターンシップ生として受け入れることが定着しています。代表としてドイツからのインターンシップ生のアレックスとステファンへのインタビューを紹介します。

1. What was your first task at ULVAC?

Alex: One of my first tasks was to build a program in LabVIEW. At first I had to learn the basics of LabVIEW. The purpose of the program is to move a stepper motor up and down. The program should include user friendly features such as a limit to overdrive. The device itself includes a sensor and a motor. It was assembled and tested by me. Now it's helping a fine positioning device to focus a camera.

Stefan: First I had to learn how to handle the machines for sputtering, measuring thickness of thinfilms and measuring the transparency and resistivity of thinfilms. Now that I'm able to handle the machines I produce thinfilms of ZnO in different environments and measure its properties afterwards. It's an interesting and challenging task, especially to get an understanding of the results of the measurements.

2. How do you want to make use of what you have learned in a company in the future?

Alex: In general it's the ability to solve problems self-reliant and if I go on with learning LabVIEW it will be very useful for me because LabVIEW is a powerful program used in many companies. Apart from this I am now used to intercultural environments and may think outside of the box when problems might occur.

Stefan: In my master thesis I already gained some skills in the characterization and measurement of CIGS - thinfilms. The skills I acquire here will expand my knowledge about measurement techniques and I also get an inside into the industrial production in a leading company. I also learn the language (it's not easy, but I try to practice every day so after the internship I hopefully can speak, read and write a little bit of Japanese) and culture that is so interesting and I can learn so much personally from.

3. What do you think of ULVAC as a company?

Alex: About the atmosphere in the company I can only say positive things. It seems like everyone is caring for each other and some of the coworkers are bringing sweets from places they have visited. Even the working culture is positive and people tend to stay longer if they have work left to be finished. One point which might be improved seems to me the productivity while meetings. I remember the quarterly meeting of our division where people were holding presentations throughout the whole day and I felt very tired after this day. Maybe I wasn't the only one. This could be improved if the people attend a soft-skill workshop in how to do well-thought-out presentations and better way of performing a power point presentation.

Stefan: I appreciate the harmonic and productive atmosphere that every employee is creating here. The skill and know-how of the employees will enable the company to also go through crises of the markets and come out in a stronger position than before. My impression of the facility is that it's all very modern and progressive, it is a beautiful place to work at.



右: Alexander Drop (研修先: 技術開発部)
左: Stefan Hass (研修先: 超材料研究所)

CSR社員意識調査結果を受けて

アルバックで勤める皆さんのCSRに関する認識度・意識を調査するため、「アルバック CSR社員意識調査」を6月13日～6月28日に実施しました。

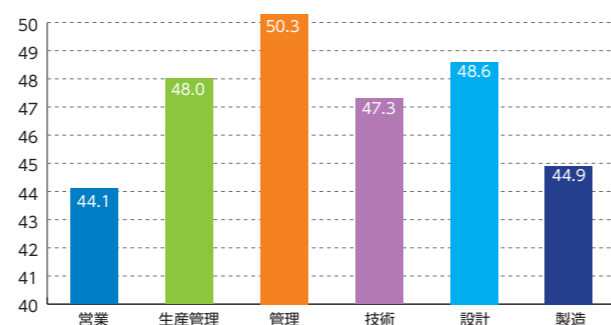
昨年に引き続きWEBを使ってアンケートを実施し、回答数1,372人中525人(回答率38.3%)について調査結果をアルバック独自の計算式でUPIX (ULVAC Precious Index and Average) を算出し、評価しました。UPIXは2011年度の調査結果の平均的な値を50とし、UPIXが高いほど、CSR意識・技術・環境・組織の領域で高い評価だったことを意味します。

まず、事業部の職種別のUPIXでは、管理部門で50以上の良好な結果となりました。一方で、昨年度50.4と良好な結果であった営業部門は、今年44.1と大きくUPIXを下げている、組織の大幅な変更も一つの原因と考えています(図1参照)。

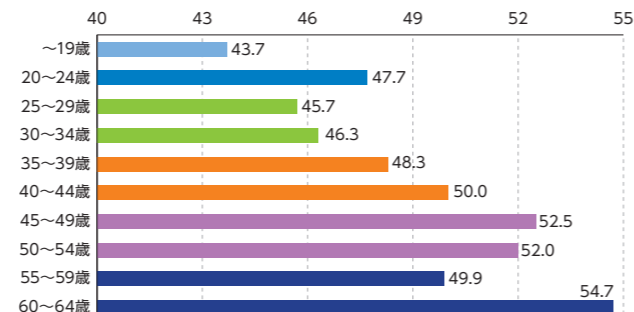
次に、年齢別のUPIXでは、昨年と同様年齢別のUPIXでは、年代が高まるにつれて評価が高まっている傾向がありました(図2参照)。今後の会社を支える若手から中堅社員の声を汲み取りながら、CSR活動や職場づくりを進めていく必要があると言えます。

今後もこの調査を継続して実施し従業員の皆さんの多くのご意見をとりいれつつ、働きやすさ・働きがいのある職場づくりを通し、アルバックのCSR活動を推進していきます。

■ 図1 事業部 職種別UPIX

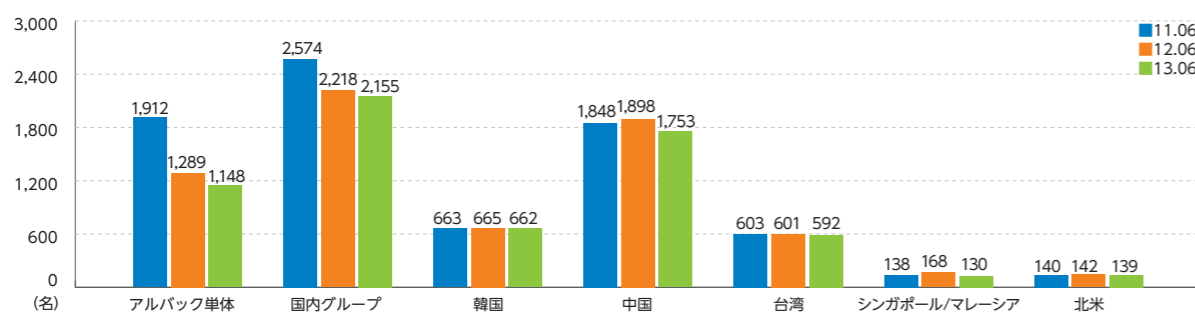


■ 図2 年齢別UPIX

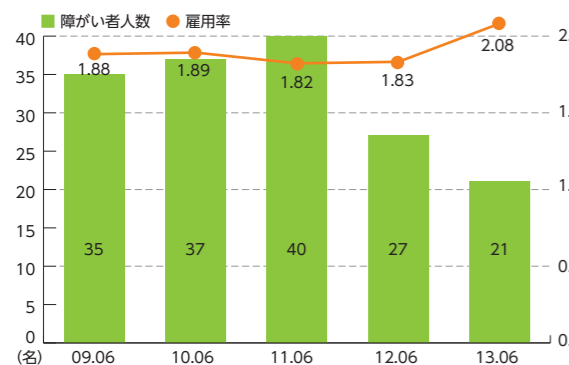


アルバックグループの人事データ

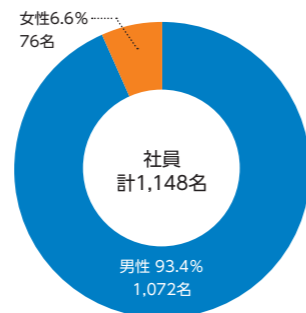
■ アルバックグループ社員数



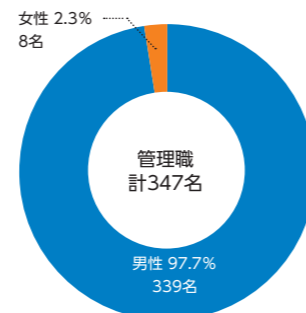
■ 障がい者雇用率の推移 (アルバック単体)



■ 社員男女比率 [13.06] (アルバック単体)



■ 管理職男女比率 [13.06] (アルバック単体)



「健康づくり」で真空技術をサポート

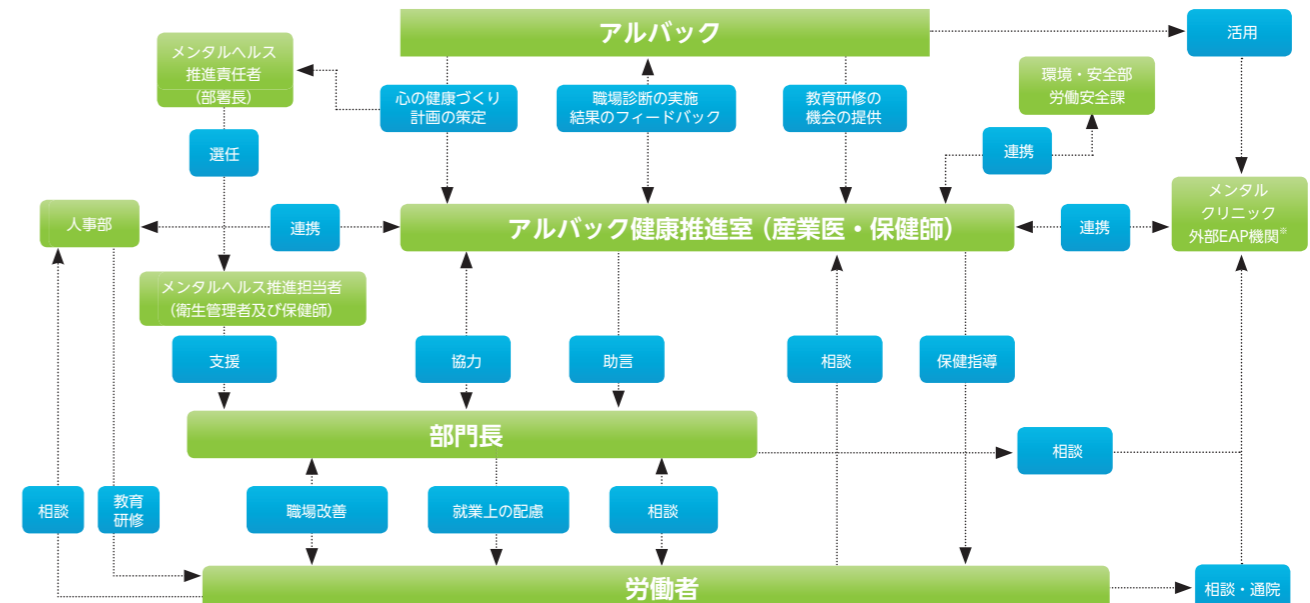
アルバックグループでは、社員が元気に働く資本としての心身の健康を重要視し、健康管理業務に取り組んでいます。アルバック茅ヶ崎本社・工場では、健康推進室に産業医(常勤1人)と保健師(常勤2人)を配置し、社員の健康づくりに取り組んでいます。

こころの健康づくり

アルバックは、メンタルヘルス対策の更なる推進を目的として、厚生労働省の指針に基づいた「心の健康づくり細則」を2012年12月に策

定しました。この社内規程に沿って、メンタルヘルスケアの支援体制を整え、教育・メンタルチェック・相談窓口の周知等を進めています。

■ 心の健康づくり細則に基づいたメンタルヘルス支援体制図



※外部EAP機関: EAPとは、Employee Assistance Program (従業員支援プログラム)の略称。職場外によるメンタルヘルスサービスの総称のこと。

メンタルチェック

メンタルヘルス不調の早期発見・早期対応を目的として、健康診断時にメンタルチェックを開始しました。メンタルチェックの結果、所見ありと判定された社員に対しては、健康診断実施後のタイミングに合わせて、産業医・保健師が面談を実施し、カウンセリングや助言を行っています。

相談窓口

「こころ」や「からだ」の健康問題に関する相談窓口を健康推進室に設置しています。社員からの各種相談に対して、産業医と保健師が、職場・日常生活での過ごし方についてアドバイスし、治療や検査が必要な場合は病院を紹介しています。

メンタルヘルスの不調により、長期に職場を離れて療養することになった社員に対しては、回復と円滑な職場復帰支援を目的として産業医と保健師が定期的に面談を実施しています。復職支援の面談、社外のリワーク施設の活用、復職時の職場の環境調整などを進めている結果、90%以上の高い復職率を維持しています。

また、相談窓口の周知とともに、管理職を対象としたメンタルヘルスのライン研修の成果も相まって、メンタル不調者の悪化事例も少なくなり、自宅療養にいたる従業員も2010年度と比較して約75%減少しました。

からだの健康づくり

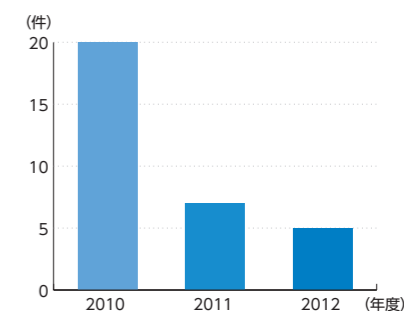
健康管理規程の策定

2013年3月に健康管理規程を策定し、健康診断結果に基づく事後措置を計画的に推進しています。具体的には、健康診断の結果、精密検査や治療が必要となった社員に対する医療指導と生活習慣病の予防や健康の保持増進を目的とした保健指導を継続しています。

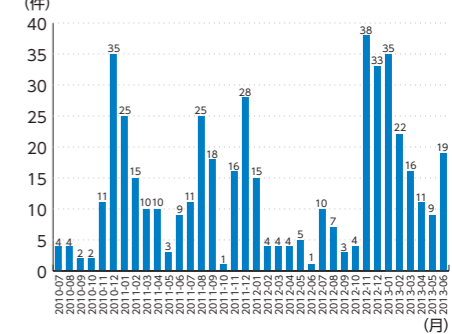
オプション検診の実施

社員の健康意識の向上を目的に、法定の健康診断項目以外の検査を社内で受診できる機会を提供しています。2011年度は睡眠時無呼吸症候群検診(SAS検診)、2012年度はウイルス性肝炎検診を実施しました。それぞれ、78人及び283人と多くの方が受診され、普段の生活では気づきにくい病気について普及啓発することができました。

■ メンタル不調による1ヶ月以上の新規休業発件数



■ 事後措置面談等の件数推移



労働安全衛生

アルバックグループは「安全第一」を企業経営の基本理念とし、私たち自身が働く身近な職場環境の安全と、お客様に利用していただくいろいろな製品やサービスの安全との両側面の安全・健康確保を理想と考えて活動しています。そして、リスクアセスメントを中心に労働安全衛生マネジメントシステム(OSHMS)を運営して、理想的な環境実現をめざしていきます。

1. 安全管理システムの展開 - お客様と従業員の安全と健康の実現にむけて -

アルバックはお客様と従業員の安全と健康の実現のために、全力で安全衛生活動に取り組んでいます。お客様の現場で発生する製品事故は徐々に減少し、2012年度は2008年度比で62%に減少するまでに成果を上げてきています。一方、私たち現場で発生する労働災害については、2012年度で度数率ゼロを達成することができました。

安全衛生活動の基本となっているのがアルバック安全管理システムですが、今年度から総括安全衛生管理者による会社全体のマネジメントレビュー、部署長による部署単位でのマネジメントレビュー、安全管理者によるブロック単位の職場安全ミーティング

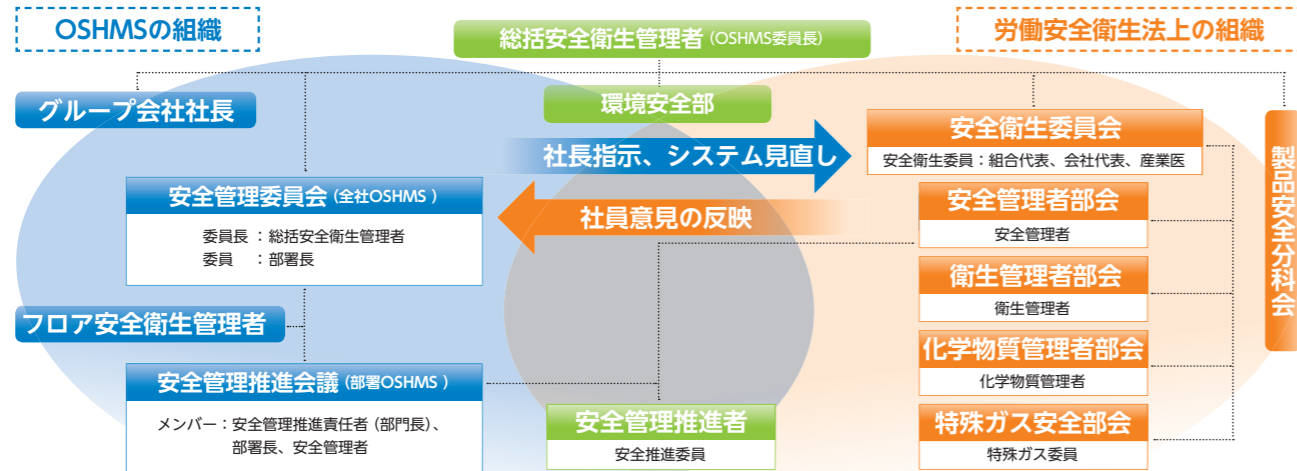
とを定期的に行うことで、経営トップ層から現場作業員までに渡って、全社を挙げて安全衛生活動に取り組んでいます。

今年度は、生産活動におけるリスクアセスメントのさらなる充実を図り、安全な職場環境の実現に注力すべく活動しています。



環境・安全部長
高橋 夏木

■ アルバック安全組織体系



※労働安全衛生マネジメントシステム(Occupational Safety and Health Management System) 厚生労働省の通達に基づき、アルバックの安全衛生水準の向上を図ることを目的として、安全衛生方針の表明、リスクアセスメントと安全対策の実施、安全衛生目標の設定、安全衛生計画の作成・実施、システム監査、マネジメントレビューの一連の活動を行うものです。



2. 海外事業の拡大に対するグローバルな対応

近年ますます海外での事業展開が拡大してきたことに伴い、アルバックグループ全体での安全活動の重要性が高まってきました。アルバックグループでは、グループ会社の代表が出席するグローバル安全委員会を定期的開催し、統一目標をめざして安全衛生活動を推進してきました。昨年度よりグループ会社全体で安

全管理システムの運用を開始し、各会社が主体的にシステムの推進に努力しています。このような活動の結果、事業の拡大とは逆に、アルバックグループ全体での労働災害は徐々に減少しつつあります。

3. 労働安全

2012年度のアルバック単体の労働災害は度数率ゼロを達成しました。これは全社を挙げての地道なリスクアセスメント推進活動によるところが大きいと考えます。一方、アルバックグループ全体での労働災害も年々減少傾向にあり、2012年度の発生率は一昨年に比べ10%に減少しました。

4. 製品安全

従来より実施されてきた種々の施策により徐々に減少してはいますが、2012年度の製品事故発生率は2011年度に比べて横ばいでした。今年度は、製品リスクアセスメント教育の実施によりアルバック製品の安全性の向上を図り、グローバルなレベルで、製品の製造から取扱いに至るすべての人を対象とした製品事故の撲滅をめざします。

5. 防災活動

東日本大震災での津波や原発事故の教訓を活かして地域防災の考え方が重要性を増してきました。

アルバックでは、作業エリアのブロックごとに消防組織を設け、いざ災害が発生した時にブロックごとに自主的に緊急対応ができるかをテーマに、ブロックごとの避難訓練を行いました。この中で、地震発生時の各自の緊急避難、火災発生時の消火活動、負傷者の救護、避難誘導、障害物の除去、ブロックごとの避難、安否確認、及び逐一の本部隊への連絡など、種々の内容が盛り込まれて行われました。

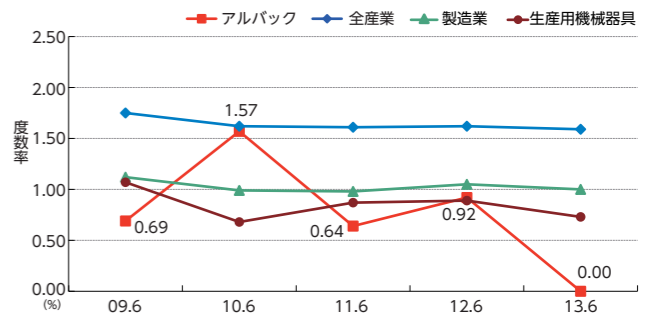
6. 救急救命についての取り組み

茅ヶ崎工場ではAEDを計6台に増設し、社内講習を通じて従業員の救急救命活動に関する技能と意識の向上を図っています。アルバックでは、毎年茅ヶ崎消防署や応急手当普及協会の皆様のご協力により救命技能認定講習を開催しています。これに加えて、今年度は、心肺蘇生法、AEDの使用方法等の最低限必要な項目に限定したより短時間で身に付けられる講習会も新たに開始しました。ここで身に付けた技能は、アルバック社内のみならず、各自が住んでいる地域でも活用していただけるものと期待しています。

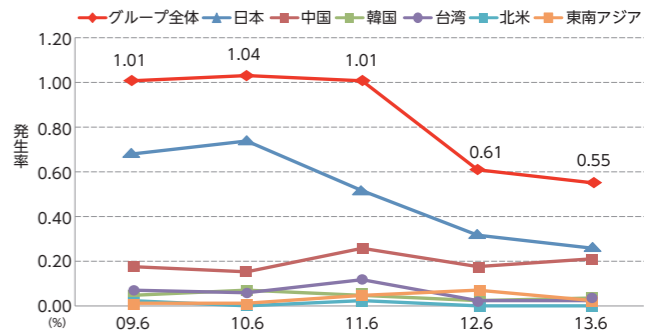


防災訓練

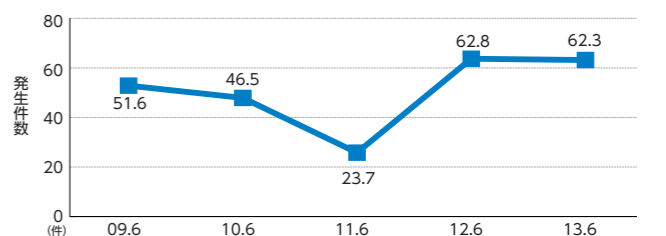
■ アルバック労働災害度数率の推移
アルバックの全事業所・支店を対象としています。2012年度の労働発生率はゼロを達成しました。



■ アルバックグループ労働災害発生率の推移
アルバックグループ全体での労働災害は年々減少傾向にあり、2012年度の発生率は一昨年に比べ10%に減少しました。



■ 製品事故発生件数の推移
このグラフは、製品事故発生件数の対売上金額(アルバック単体)比で、2008年6月期を100として表したものです。2011年度から基準を変更し、同一製品の類似事故をすべて集計したことにより、件数がやや増加しています。2012年度は2011年度に対して横ばいでした。



救急救命訓練

グローバルな企業市民活動

アルバックグループでは、「独創的な先端技術を持って産業と科学の発展に貢献する」という経営理念の下、独創的な技術を世界中に提供するとともに、アルバックが保有する技術や人材を活かし、社会のさまざまな課題を解決するための活動を行っています。

台湾における「安平星光マラソン」活動



みんなでゴール!!

アルバック台湾は2013年7月20日午後5時に台南市政府が開催した“幸せ御守り～台南安平星光マラソン活動～”に参加しました。本活動は台南市政府が市民の運動を提唱し、さらに台南の観光事業を促進するために実施されました。この活動では健康で強い体を作ることを目的とする以外、台南の安平における美しい夕方の景色を見ることが出来ます。

アルバック2013年度労働安全衛生方針の「メンタルヘルスクアの推進で心の健康づくり」の政策に従い、アルバック台湾は蔡有哲総経理及び魏雲祥副総経理をはじめ、社員たちと一緒に今回の運動活動に参加しました。社員が自主的に参加することにより、仕事以外の生活経験と運動がお互いを深める交流となり、社員たちの心身健康も強化できました。最後は全員で集合写真を撮り、良い思い出となりました。

韓国アルバック祭開催! ～地域住民の方々に感謝を込めて～



2012年度は子供向けプログラムを充実

2011年度に引き続き2012年度も韓国アルバック祭が2012年11月10日に幕を開けました。2012年度には子供たちの参加率が高くなることを予想し、子供たち向けの食べ物やダンス競演、幸運券くじ引き等、子供たちが参加できるようなプログラムを拡大運営することでご家族から多くの好評をいただきました。

また、ACROBATIC CHEER LEADERの公演や海産物を使ったマジック、タップダンス等の公演を開催し、地域住民の方にさまざまな見どころを提供させていただきました。さらに、韓国アルバック祭では地域の農産物を安い値段で販売し、その収益金は地域の福祉などに役立てられています。なお、社員はアルバック特技自慢に参加し、日常生活での疲れをリフレッシュしました。

環境募金活動レポート

日本リライアンス(株)は環境募金を2003年8月より開始し、独立行政法人環境再生保全機構に寄付して、民間団体(NGO)の環境保全活動への資金の助成などに役立てられています。その継続的な活動が環境募金に協力した会社として、2012年10月から環境再生保全機構のWEBに「職場の各フロアには地球環境基金の募金箱を設置していただいております。環境月間である6月には『環境募金キャンペーン』を行い、環境推進リーダーが社員に募金を呼びかけるなど、積極的な協力をいただいております。」と紹介されています。また2013年3月には発行部数3千部の地球環境基金のご案内リーフレットに掲載されました。



職場の各フロアに募金箱を設置

中学校での出張授業

アルバックは、民間企業研修として茅ヶ崎市内の教員を受け入れたり、茅ヶ崎市内の小中学生の工場見学実施や出張授業を行ったりしています。

中学校への上出張授業では、社員が講師となって「科学技術者」という職業について紹介しました。アルバックの事業の柱である「真空」に親しみを持ってもらうために、真空ポンプを用いて子供たちに分かりやすく説明しました。マグデブルグの実験や真空中での物体の様子を知る実験を行い、子供たちに好評を得ました。アルバックグループでは、学校教育支援活動を通じて、将来を担う子供たちの育成にも積極的に取り組んでいきます。



マグデブルグ実験の様子

アルバックグループの地域清掃活動

アルバックの国内、海外の各グループ会社では積極的に清掃活動に参加しました。環境に対する意識が高まり年々活動の幅が広がっています。その活動の一部を紹介します。

- アルバック、アルバックテクノ、アルバック・ファイ
茅ヶ崎市長主催、「茅ヶ崎ビーチクリーン」の清掃活動に参加
- アルバック東北
アルバックグループによる北インター工業団地内道路清掃実施
八戸ハイテクパーク立地企業によるハイテクパーク周辺及び北インター工業団地清掃奉仕活動に参加
- アルバックテクノ
裾野市ゴミ拾いボランティア団体「フラごみ」の活動(裾野CIP)に参加、「白山市の平成24年度下期のクリーン作戦」に参加(石川CS)など、アルバックテクノ12拠点において清掃活動を実施
- アルバック理工
社屋周りの道路清掃を毎朝実施
- タイゴールド
山武事業所の行う構外清掃活動に参加
- 日本リライアンス
横浜市金沢区海の公園のボランティア清掃を有志で実施
- 韓国アルバック
平澤工場と玄谷工場にて毎月1回ずつ工場の周りの環境整理活動実施
- アルバック天馬
市の活動に参加し、工場周辺を清掃



アルバックテクノ大分CSセンター



アルバック理工



日本リライアンス

CSRの活動実績と目標一覧

アルバックグループは、「独創的な先端技術を持って産業と科学の発展に貢献する」という経営理念の下、独創的な技術を世界中に提供するとともに、アルバックが保有する技術や人材を活かし、社会のさまざまな課題を解決するための活動を行っています。

◎計画以上成果を達成、○「達成」及び「予定通り進捗」、△努力を要する、×さらなる努力を要する

ステークホルダー	コミュニケーションガイドライン	2012年度の目標	2012年度の実績	2012年度自己評価	2013年度の目標	
お客様	お客様との信頼関係を重要視し、品質・安全性の向上に取り組んでいます。	<ul style="list-style-type: none"> クレーム管理システム アルバックブランドのグローバル化 品質検査体制のグローバル化 	クレーム管理、アルバックブランド、品質検査体制のグローバルな仕組みをつくり、品質・安全性の向上に寄与した。	○	<ul style="list-style-type: none"> クレーム管理システムの見直し(ULKES-QMS)を行う。 ISO9000/14001のグローバル統合認証の導入を推進する。 品質検査の仕組みの見直しを行う。 	
お取引先	適正かつ公正・公平な取引関係を維持促進し、相互に確かな信頼関係を築けるよう努めています。	<ul style="list-style-type: none"> さまざまなコストダウン施策により利益率を改善する 品質認定サプライヤー制度 	事業部の生産工程に積極的に関与しコストダウンに貢献した。	○	事業部の構想設計段階におけるDR(デザインレビュー)に参画し、前工程におけるコストダウンによりアルバックグループ連結コストを削減する。	
			不適合率が堅調に低下しており、海外拠点へ改善活動の展開もスタートした。	○	認定サプライヤー制度により受入検査の簡略化を推進し、品質の安定供給に努める。	
株主・投資家	企業活動や財務情報の迅速な開示に努め、株主・投資家の皆様と積極的なコミュニケーションに取り組んでいきます。	<ul style="list-style-type: none"> アルバックレポートの発行 決算説明会などのコミュニケーション 	統合レポートとしてアルバックレポートを発行した。	○	コーポレートコミュニケーションを積極的に取り組む。アナリスト・投資家対応件数を増やす。	
			アナリスト投資家対応件数164件。	—		
従業員	多種多様な働き方をしながら安心して快適に働ける職場づくりに取り組んでいきます。	<ul style="list-style-type: none"> 人事制度の改訂 CSR意識調査 こころとからだの健康づくり 安全管理システムの展開、事故半減 	アルバックでは、CSR意識調査を実施し、調査結果をアルバックレポートに掲載した。*	○	<ul style="list-style-type: none"> 継続してCSR意識調査を実施し、社員の意見を多く取り入れCSR活動を推進する。 考課制度変更に伴う評価者研修を実施し、制度の実質的な浸透を図る。* 社員のライフワークバランスを向上させるための労務管理研修を実施する。* 健康管理規程に基づく健診事後措置を徹底し、健康リスクの低減を図る。* メンタルチェックを実施し、有所見者に対し面談を実施することにより、メンタル不調者発生防止を図る。* メンタルヘルス研修を継続実施し、働きやすい職場づくりをめざす。* 	
			<ul style="list-style-type: none"> 報酬体系(給与・賞与)及び考課制度の見直しを行い、規程改訂を完了させた。* 社員向けのポータルサイト(UL-HEALTH:アルヘルス)を開発し、健康情報へのアクセス数を向上させた。* 健康管理規程・心の健康づくり細則を策定し、健康管理を計画的に推進できるようにした。* 	◎		
			<ul style="list-style-type: none"> 労災発生の度数率はゼロを達成した。(◎) 製品事故発生率は11年度に対し横ばいであった。(△) 	△		労災発生の度数率ゼロの継続。製品事故は半減をめざす。
環境	地球環境の保全を人類共通の課題の一つととらえ、環境に配慮した事業活動に取り組んでいきます。	環境負荷の削減に貢献する製品を開発し販売する	<ul style="list-style-type: none"> 電力使用料を削減したX線光電子分光分析[PHI X-tool]を販売開始。 自動車用樹脂グレージング(ポリカーボネート/PC)部品用の「ULGLAZEシステム」を発表。 お湯と水で作動する「可搬型小型発電システム ECOR-3」が「第29回神奈川工業技術開発大賞 地域環境技術賞」を受賞。 	◎	環境負荷の削減に貢献する製品を開発し販売する。	
			事業所の環境負荷の低減を図る	<ul style="list-style-type: none"> エネルギーの効率的な利用に努めたが、CO₂の排出係数の上昇等により前年度と比較し、115.7%となった。 廃棄物の処理の適正化及び有価化を進めた。 環境事故の発生はゼロ件。 	◎	事業所の環境負荷の低減を図る。
			環境活動に対し積極的な参加と意識の向上を図り社会貢献を行う	各社で積極的に社外の環境活動に参加した。	◎	環境活動に対し積極的な参加と意識の向上を図り社会貢献を行う。
地域社会	各国・各地域の習慣・文化に根ざした社会貢献活動に取り組んでいきます。	<ul style="list-style-type: none"> 田んぼプロジェクト 茅ヶ崎市との防災協定 Munsan川の河川清掃 地域ボランティア清掃 	<ul style="list-style-type: none"> 田んぼプロジェクトはアルバックだけでなく、文教大学湘南総合研究所及びアルバックテクノ(株)の協力を得て、2011年に比べ面積が2倍となり年間参加者が93名増加した。 アルバックテクノ(株)が茅ヶ崎市と防災協定締結。(アルバックは2011年に締結) 	○	<ul style="list-style-type: none"> 5年目を迎える田んぼプロジェクトでは、1イベント100名の参加を目標とし、より地域とのコミュニケーションを促進する。 社会貢献活動方針を策定する。 	

*アルバック単体の取り組み

コーポレート・ガバナンス

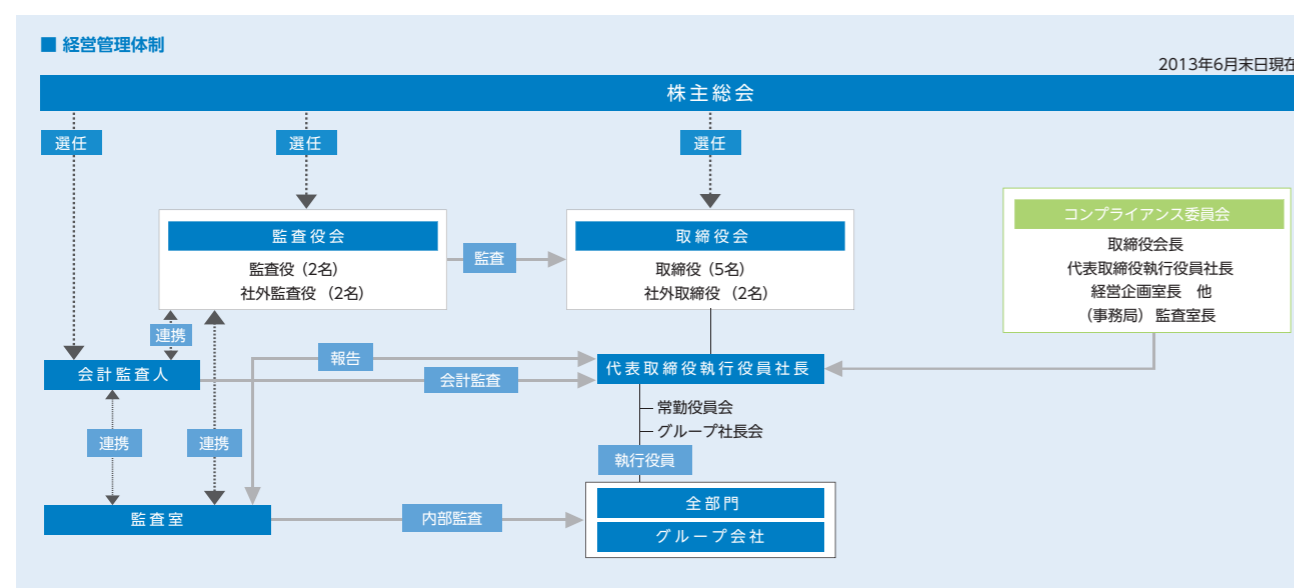
コーポレート・ガバナンスは、社会並びに株主の皆様に対する企業責任遂行のための最重要経営課題の一つと認識しております。企業経営における公正中立性、透明性の確保と同時に、迅速かつ効率的な業務執行の実現を重視しております。そこで、2012年7月1日より執行役員制度を導入し、経営の意思決定及び業務監督機能と業務執行機能の分離を図りました。

アルバックの経営管理体制

アルバックは、経営上特に重要な事項についての合議機関として、取締役会を設置し、毎月1回の頻度で定時開催を行うとともに、機動性確保の観点から必要に応じて臨時開催も開催しております。この取締役会は7名から構成されており、うち2名を社外取締役としています。また監査、監督の充実という観点から、経営判断及び業務執行の監督機関として監査役会を設置しております。この監査役会は、4名から構成されており、うち2名を社外監査役としています。

業務執行体制

アルバックは、取締役会における判断を補完しつつ迅速かつ効率的な業務執行の実現を目的とする機関として常勤役員会を設置し、毎月2回の頻度で定時開催を行うとともに、機動性確保の観点から必要に応じて臨時開催も開催しております。この常勤役員会は常勤取締役及び執行役員計14名より構成されております。



コンプライアンス

アルバックグループは、より徹底した法令遵守体制を推進するため「コンプライアンス規程」及びその関連諸規定を定めて体系化しています。この規定体系に従って、コンプライアンス委員会の運営や内部通報制度の運用といった体制が整備され、法令遵守の精神を社内に定着させるよう継続的に活動しています。

企業倫理行動基準の制定

アルバックは、18項目からなる社員一人ひとりの行動規範を示した「企業倫理行動基準」を制定し、内容説明を行った上で、小

冊子化したものを配布しています。社員一人ひとりが、これを企業人としての法令遵守精神の証とできるようにしています。

内部通報制度による法令遵守

アルバックは、法令違反などによって生じる影響を最小限に留めるため、内部通報制度を整備しています。内部通報制度の窓口は、コンプライアンスの社内調査機関であるコンプライアンス委員会の事務局を務める監査室が担当しています。この内部通報制度を利用しやすくすることを目的として、同室の活動の独立性を確保するとともに、匿名による通報も認めています。さらに、この社内調査の公正性を担保しつつ、慎重な審議を行

うために、コンプライアンス委員会の構成員を会長、社長と各組織の長とし、厳格な守秘義務を自ら課した上で、通報者や調査関係者に対して不利益な取り扱いがなされないような運用をしています。この観点から、社内調査は、慎重に行われており、社内外を問わず多くのヒアリングを行うとともに、特に専門性が要される事案では、弁護士などが同席して行うものとしています。

違反行為への対応

コンプライアンス委員会で調査案件について審議した結果、法令や社内規則への違反事実が認められた場合、速やかに該当違反行為の中止措置を実行します。そして、違反行為に関連した者についての処分を指示するとともに、特に重大な違反行為に対しては、懲戒委員会の審議を経てしかなるべき処分を決定します。さら

に、違反行為が起きた根源的な原因まで検討を行い、より実効的な再発防止策を講じるよう努めています。

リスクマネジメント

アルバックグループは、複雑多様化するリスク要因に対して、識別・分類・分析・評価を通じて適切かつ迅速な対応がとれる体制を拡充しています。このリスクマネジメント体制を戦略的経営と有機的に結びつけることで、より一層の企業価値向上を図っています。

リスクマネジメント体制構築への取り組み

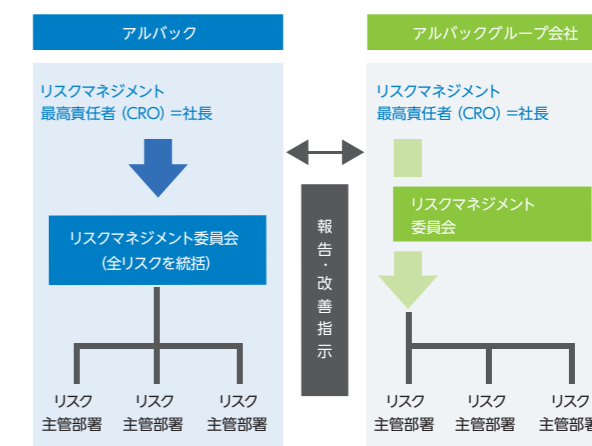
グループ共通規定によるリスク対応体制の強化
アルバックグループは、リスクマネジメント体制の拡充を重要経営課題と認識しています。そこで、アルバックグループ共通規定として「アルバックグループ・リスクマネジメント規程」を制定

し、グループ各社の社長がそれぞれ最高責任者の任に就き、さまざまなリスクに関する情報を関係部署と共有しています。さらに、重要事項については、グループ各社の社長からアルバックの社長にまで速やかに情報が伝わる体制にしています。

アルバックのリスクマネジメント体制

アルバックは、広範なリスクを分類し、それぞれのリスクに対して主管部署を設置しています。この主管部署は、インフォメーションセンターとして、関係部署を取りまとめて具体的なリスクの洗い出しを行い、評価をしています。そして、情報を恒常的に収集して適切にリスク対応するとともに、問題点の察知も行っています。特にこの評価作業において重要と判断されたリスク情報については、円滑な情報の収集ができるように継続的活動を行い、緊急時には迅速に対応できるように特に配慮しています。その上で、このリスクマネジメント体制の検証の観点から、社長が委員長となり、リスク主管部署によって構成されているリスクマネジメント委員会をリスクマネジメント統括組織として年2回定時開催し、全社的な基本方針の決定や管理運営状況の把握と改善に取り組んでいます。

リスクマネジメント体制



- ・リスクごとに主管部署を設定し、PDCAによるリスクマネジメントを行っています。
- ・グループ会社においては、各社の規模等を勘案して、リスクマネジメント委員会の設置の要否を判断しています。

役員一覧 Board of Directors and Auditors

取締役



小日向 久治
代表取締役執行役員社長



坊 昭範
取締役専務執行役員



本吉 光
取締役執行役員



末代 政輔
取締役執行役員



小田木 秀幸
取締役執行役員



皆川 卓士
取締役 (社外)



池田 修三
取締役 (社外)

執行役員



中村 静雄
常務執行役員



岩下 節生
常務執行役員



平野 裕之
執行役員



中村 孝男
執行役員



齋藤 一也
執行役員



白 忠烈
執行役員



梅田 彰
執行役員

監査役



大井 宣夫
監査役



待鳥 啓信
監査役



浅田 千秋
監査役 (社外)



大塚 一実
監査役 (社外)

財務ハイライト

会計年度	単位：百万円 (1株当たり金額を除く)					単位：千ドル (1株当たり金額を除く)
	2009年6月	2010年6月	2011年6月	2012年6月	2013年6月	2013年6月
受注高	172,212	221,705	235,932	152,221	166,778	1,690,946
売上高	223,825	221,804	232,040	196,804	163,351	1,656,200
営業利益(損失)	3,483	4,809	1,850	(6,384)	6,115	61,999
税金等調整前当期純利益(損失)	(1,600)	4,558	(9,192)	(33,704)	(565)	(5,728)
当期純利益(損失)	811	2,138	(8,706)	(49,984)	(3,807)	(38,599)
設備投資額	19,567	11,087	17,827	12,719	6,761	68,549
減価償却費	12,320	11,949	10,717	9,096	7,967	80,777
研究開発費	8,344	8,005	8,255	7,088	4,989	50,583

会計年度末						
総資産	318,076	313,784	313,616	249,651	243,289	2,466,684
純資産	90,158	102,504	92,023	41,187	59,436	602,616
従業員数(人)	6,871	7,169	7,878	6,981	6,579	6,579

一株当たり情報						
純資産	1,961.08	1,992.06	1,787.51	751.00	806.38	8.18
当期純利益(損失)	18.90	46.60	(176.43)	(1,012.94)	(87.79)	(0.89)
潜在株式調整後当期純利益	17.44	42.65	-	-	-	-
配当金	21.00	21.00	-	-	-	-

その他情報						
総資産当期純利益率(ROA)	0.3	0.7	-	-	-	-
自己資本当期純利益率(ROE)	0.9	2.3	-	-	-	-
自己資本比率	26.4	31.3	28.1	14.8	22.7	22.7

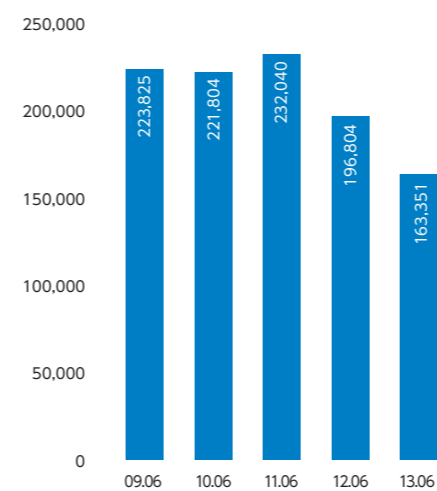
注記：米ドル金額は、便宜上、1米ドル=98.63円(2013年6月30日現在)で換算しています。

将来の見通しに関する記述についての注意事項

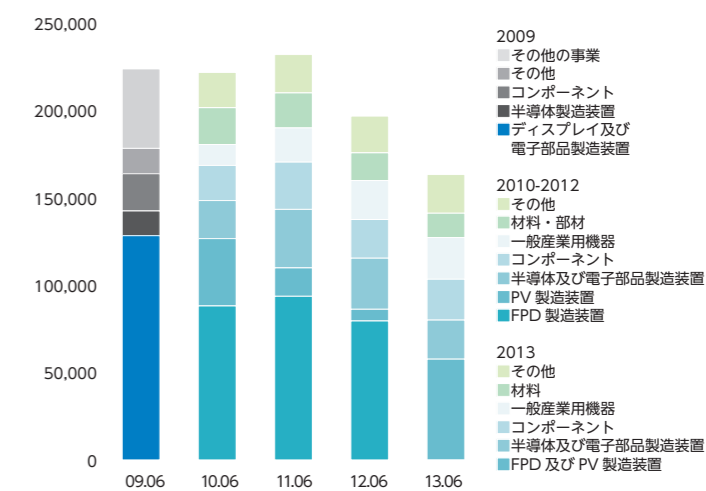
このレポートで述べられている将来の当社に関する見通しは、現時点で知りうる情報をもとに作成されたものです。当社グループのお客様であるフラットパネルディスプレイ (FPD)・半導体・太陽電池・電子部品などの業界は技術革新のスピードが大変速く、競争の激しい業界です。

また、世界経済、為替レートの変動、FPD・半導体・電子部品・原材料などの市況、設備投資の動向など、当社グループの業績に直接的・間接的に影響を与える様々な外部要因があります。したがって、実際の売上高及び利益は、このレポートに記載されている予想数値とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

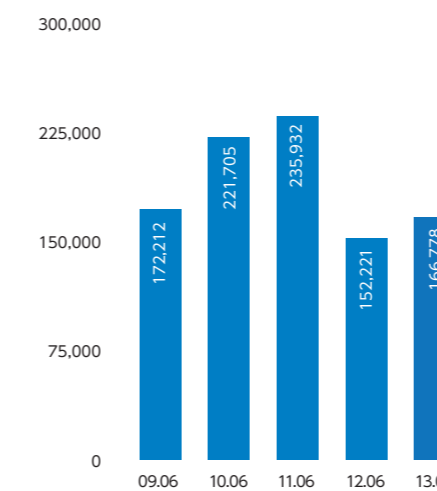
■ 売上高 (単位：百万円)



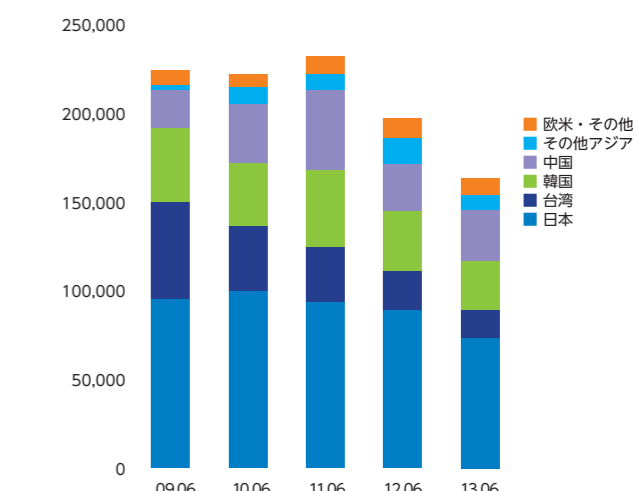
■ 品目別売上高 (単位：百万円)



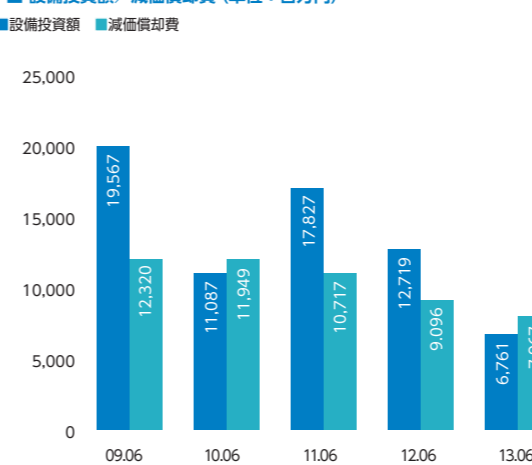
■ 受注高 (単位：百万円)



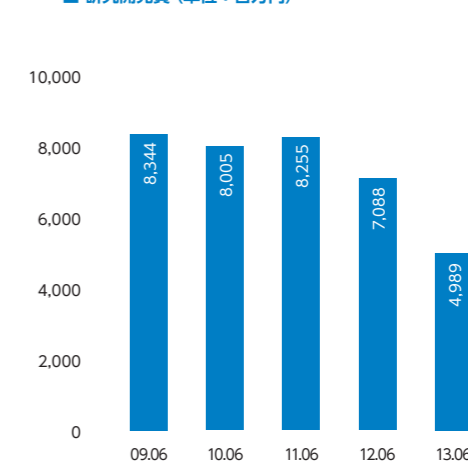
■ 地域別売上高 (単位：百万円)



■ 設備投資額/減価償却費 (単位：百万円)



■ 研究開発費 (単位：百万円)



営業の概況

経営成績

当連結会計年度におけるわが国経済は、各種経済政策の効果による株価の上昇、円高の是正などにより、個人消費が堅調に推移したほか企業収益にも改善の動きが見られ、一部に不透明さが残るものの、景気は着実に持ち直してまいりました。米国では、個人消費の伸びの拡大や失業率の低下など緩やかな回復傾向で推移いたしました。欧州では、景気の下げ止まりの兆しが見られるものの、依然として一部の国々で財政の先行きや高い失業率に対する不安が懸念されております。中国では、個人消費や輸出の伸びが鈍化してきたことに伴い、景気の拡大テンポが緩やかなものとなってまいりました。

このような状況において、当社グループの主要なお客様であるフラットパネルディスプレイ(FPD)業界では、テレビ市場の低迷により大型液晶テレビ関連の設備投資が引き続き停滞いたしました。モバイル機器向けの中小型液晶ディスプレイ関連の設備投資は一服感が見られましたが、次世代ディスプレイとして注目されている有機EL関連の設備投資に動きが出るなど、一部に回復の兆しが見られました。半導体業界では、引き続きPC需要が低迷しているものの、メモリ価格の底打ち感から一部のお客様で設備投資再開の動きが出てまいりました。

収益面では、お客様からの継続的な価格引き下げ圧力に加え、

競合他社との厳しい価格競争の中、グループ全体での諸経費削減の徹底、設備投資の抑制など固定費を圧縮するとともに、生産コストの削減を図りました。加えて、FPDや半導体業界での受注環境が極めて厳しい状況にあることから、さらなる固定費の削減を図りました。

その結果、当連結会計年度につきましては、受注高は、有機ELなどのFPD製造装置が寄与したことなどから、1,667億78百万円と前年に比べて145億58百万円(9.6%)増加となりましたが、受注時期の遅れなどにより売上高は1,633億51百万円と前期に比べて145億58百万円(9.6%)減少となりました。損益につきましては、売上高が減少したものの、事業構造改革を推進し、コストの削減に努めたことなどにより、営業利益は61億15百万円(前期は63億84百万円の営業損失)、経常利益は62億64百万円(前期は64億97百万円の経常損失)となり黒字を達成することができました。しかしながら、マテリアル事業における一部不採算製品・取引の見直しに伴う特別損失を60億89百万円計上したことから、38億7百万円の当期純損失(前期は499億84百万円の当期純損失)となりました。なお、事業構造改革費用60億89百万円の内訳は、棚卸資産評価損53億98百万円、(遊休となる)固定資産の減損6億91百万円などであります。

真空機器事業

真空機器事業を品目別に見ますと下記のとおりです。

FPD製造装置及びPV製造装置

FPD関連では、受注に関しましては、アジア地域を中心にモバイル機器や照明に使われる有機EL製造装置や、中国を中心に大型テレビ用液晶ディスプレイ製造装置が寄与し、前年同期比で増加いたしました。売上に関しましては、アジア地域を中心に大型液晶テレビ用スパッタリング装置やモバイル機器に使われる中小型液晶ディスプレイ製造用のスパッタリング装置、プラズマCVD装置及び有機EL製造装置を計上いたしました。

太陽電池(PV)関連では、高効率結晶系太陽電池製造装置の受注があり、韓国、台湾向けに化合物系太陽電池製造装置を中心に売上を計上いたしました。補助金政策による太陽電池市場の盛り上がりがあるものの、設備投資は低迷したままで推移いたしました。

半導体及び電子部品製造装置

半導体及び電子部品関連では、PC需要の低迷の影響を受け、総じて厳しい状況で推移し、受注・売上とも前年同期比で減少いたしました。スマートフォン関連のファウンドリ用製造装置は、後工程だけでなく前工程向けにスパッタリング装置「ENTRON™-EXシリーズ」を受注いたしました。一般的な受注の回復までには至りませんでした。省エネ対応として照明や液晶ディスプレイ用バックライトなどに使用されるLED需要の盛り上がりへ向け、LED製造用エッチング装置や成膜装置などの受注・売上が予想を下回りました。

コンポーネント

コンポーネント関連では、FPDや半導体業界の設備投資が低迷した影響を受け、ドライポンプ、半導体製造装置用真空ポンプな

どの受注が厳しい状況でした。一方、有機EL製造装置などのモバイル機器や光学分野向けのクライオポンプ及び分析機器や医療機器向けの小型ポンプ関連が堅調に推移し、受注・売上とも前年同期比で増加いたしました。

一般産業用装置

一般産業用装置関連では、自動車部品用の真空熱処理炉や自動ヘリウムリークテスト装置などに加え、医薬品用凍結真空乾燥装置や健康食品用真空蒸留装置などの売上が堅調に推移し、前年同期比で増加いたしました。

その結果、真空機器事業の受注高は1,302億83百万円、受注残高は613億23百万円、売上高は1,272億82百万円となり、54億11百万円の営業利益となりました。

真空応用事業

真空応用事業を品目別に見ますと下記のとおりです。

材料

液晶ディスプレイ用スパッタリングターゲット材料関連では、主要パネルメーカーの稼働率の低迷が続き、引き続き厳しい状況で推移し、加えて半導体関連も生産調整による減産の影響を受け、受注・売上が低迷し、前年同期比で減少いたしました。

その他

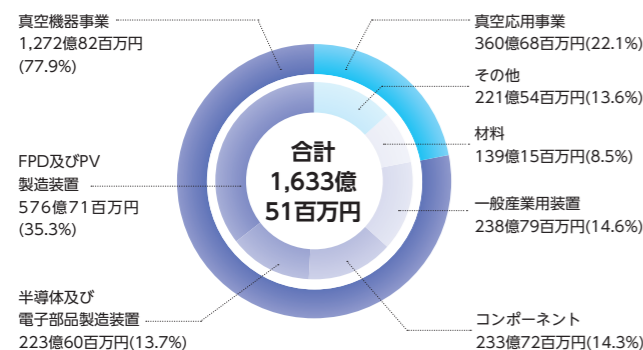
制御システム関連では、日本の自動車業界を中心に売上を計上いたしました。中国向け案件の投資延期や見送りなどが影響し、受注が低迷いたしました。分析機器関連では、日本や欧米の

民間企業や国などの研究機関向けを中心に受注・売上とも堅調に推移いたしました。また、マスクブランクス事業は、スマートフォンやタブレットPC関連が好調であったため、中小型液晶ディスプレイやタッチパネル関連を中心に受注・売上とも堅調に推移いたしました。

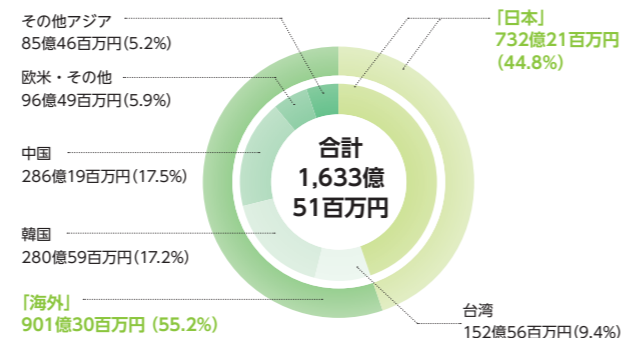
その結果、真空応用事業の受注高は364億96百万円、受注残高は112億21百万円、売上高は360億68百万円となり、5億88百万円の営業利益となりました。

なお、上記金額には消費税等は含まれておりません。

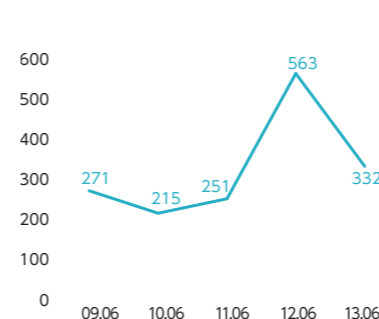
事業別売上高



地域別売上高



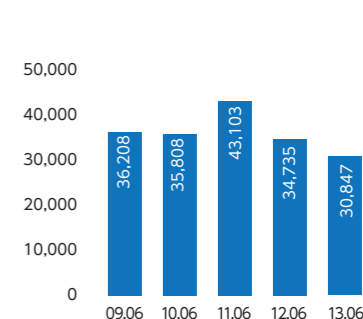
負債比率 (%)



純資産 (単位: 百万円) / 自己資本比率 (%)



販売費及び一般管理費 (単位: 百万円)



□ 財政状態に関する分析

1 期末の資産、負債及び純資産の状況

● 資産

前期末に比べ、63億62百万円減少となりました。主な内容は、受取手形及び売掛金が52億81百万円、たな卸資産が133億1百万円、建設仮勘定が39億3百万円減少したこと、一方で現金及び預金が162億6百万円増加したことによります。

● 負債

前期末に比べ、246億11百万円減少となりました。主な内容は、コマーシャル・ペーパーが100億円、受注損失引当金が42億87百万円、流動負債「その他」が72億76百万円、長期借入金が41億35百万円減少したことなどによります。

● 純資産

前期末に比べ、182億49百万円増加となりました。主な内容は、資本剰余金が150億円増加したことなどによります。

2 当期のキャッシュ・フローの状況

● 営業活動によるキャッシュ・フロー

減価償却費、売上債権の減少、たな卸資産の減少、前受金の増加などのプラス要因に対し、税金等調整前当期純損失、仕入債務の減少、受注損失引当金の減少、特別退職金の支払などのマイナス要因により、223億57百万円の収入となりました。

● 投資活動によるキャッシュ・フロー

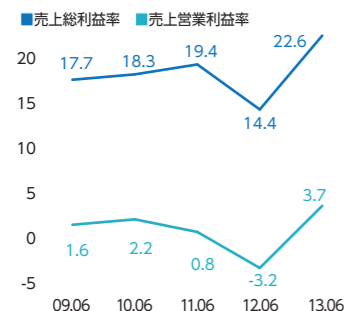
有形及び無形固定資産・関係会社株式の取得による支出などにより、45億6百万円の支出となりました。

● 財務活動によるキャッシュ・フロー

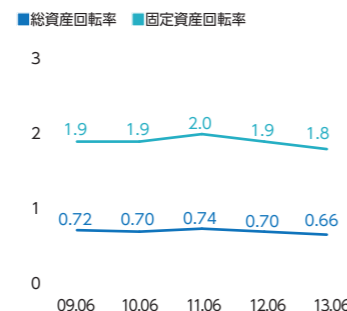
株式の発行による収入、短期借入金の増加、コマーシャル・ペーパーの減少、長期借入金の減少、リース債務の返済による支出などにより、36億19百万円の支出となりました。

以上により、現金及び現金同等物の期末残高は前期末に比べ、160億23百万円増加し、442億4百万円となりました。

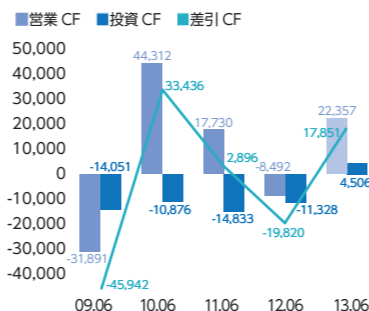
■ 売上総利益率/売上営業利益率 (%)



■ 総資産回転率/固定資産回転率 (回)



■ キャッシュ・フロー (単位: 百万円)



□ 事業等のリスク

当社グループの業績、財務状況等に影響を及ぼす可能性のある主なリスク要因は、以下のとおりです。

1 FPD、太陽電池及び半導体の市場変動による影響

当社グループは、特にFPD、太陽電池及び半導体などの製造工程で使われる真空装置の分野において、独自技術の開発を行って市場投入することにより、同分野におけるシェアを獲得して成長してまいりました。今や、同分野の売上は、連結売上高の約5割を占めており、当社グループの主力分野となっております。その反面、当社グループの取引先であるFPDメーカー、太陽電池メーカー及び半導体メーカーの設備投資の大幅な縮小が発生した場合や取引先である顧客の財務状況が悪化した場合には、当社グループの経営成績や財政状態に悪影響が及ぶ可能性があります。

2 研究開発による影響

当社グループは、積極的な研究開発投資を継続して行うことにより、最先端技術を使用した新製品を市場に投入し続けてきました。しかしながら、新技術を製品化する上では不可避の、想定計画との比較において開発が著しく困難な局面にぶつかったり、または開発の著しい遅延が余儀なくされるといった事象が発生した場合などに、当社グループの経営成績や財政状態に悪影響が及ぶ可能性があります。

3 価格競争による影響

当社グループの主要取引先であるFPD業界においては、依然としてデジタル家電の需要が高いものの、当該取引先からの強い販売価格の引き下げ要求が恒常化していることに加え、韓国、台湾、中国の新規競合メーカーの台頭による一層の競争の激化や、材料・購入品の価格高騰による原価上昇によって、当社グループの経営成績や財政状態に悪影響が及ぶ可能性があります。

4 海外売上高増加による影響

当社グループの海外売上高比率は高く、特に韓国、台湾及び中国などの対アジア地域売上高比率が高率となっております。そこで、為替リスクを回避するため、原則として円建取引をしております。しかしながら、当該円建取引では、円高時において価格競争力の面で海外メーカーと比較して不利となることがあります。また、例外的に外貨建取引を行った場合においては、急激な為替変動による為

替リスクが生じる可能性があります。これらの要因により、当社グループの経営成績や財政状態に悪影響が及ぶ可能性があります。

5 グローバル事業展開に関する影響

当社グループは、今後成長が期待される中国市場におけるシェア確保のため、積極的に同国に進出して現地法人による事業展開をしております。これらの現地法人においては、個々の経営を把握して適宜対応できる体制を構築しておりますが、予期しえない法制度の変化による各種規制や税制・相場制度の変更、政情不安、景気変動、人材の流出などにより、当社グループの経営成績や財政状態に悪影響が及ぶ可能性があります。

6 品質に関する影響

当社グループは、ISO9001の認証取得を含む品質保証体制を確立し、高レベルのサービスを提供し続けてきました。しかしながら、常に先端技術を利用した製品を提供していることから、開発的要素も多く、予期せぬ不良が発生して対応を余儀なくされる場合も想定されます。このような場合、当社グループの経営成績や財政状態に悪影響が及ぶ可能性があります。

7 知的財産権に関する影響

当社グループは、各種真空装置に関する多数の特許を保有し、積極的に新規権利獲得にも努めています。同時に、当社グループの製品に関する第三者の特許調査も行っております。しかしながら、第三者から不測の特許侵害訴訟が提起された場合、当社グループの経営成績や財政状態に悪影響が及ぶ可能性があります。

8 資金調達に与える影響

当社グループの借入金にかかる金融機関との契約には、財務制

限事項が付されているものがあります。当該財務制限条項に抵触した場合、当社グループの経営成績や財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

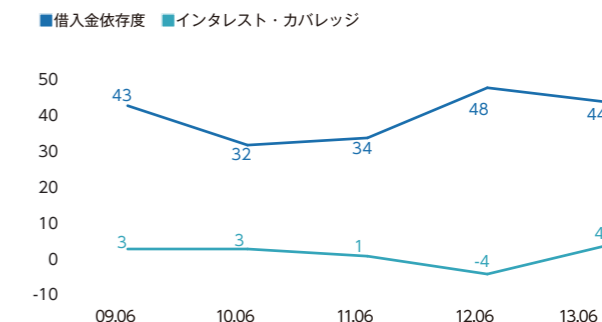
9 訴訟等に係るリスク

当社グループの営む事業に関連して、国内外の訴訟等の対象となるリスクが存在しており、重要な訴訟等が提起された場合には、当社グループの経営成績や財政状態に悪影響が及ぶ可能性があります。

10 その他リスク

当社グループと同様にグローバルな事業展開や広範な事業展開をしている企業と同じく、各国または各地域における経済環境、自然災害、戦争、テロ、感染症等の諸般の不可抗力要因が、当社グループの経営成績と財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

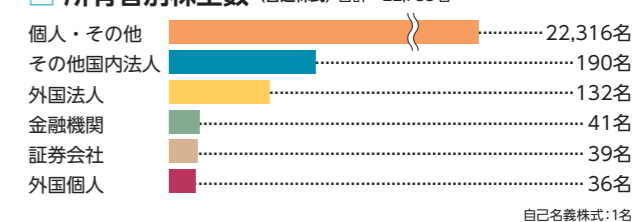
■ 借入金依存度 (%) / インタレスト・カバレッジ (回)



□ 株式の状況 2013年6月30日現在

発行可能株式総数	普通株式	100,000,000株
A種類株式	1,500株	
B種類株式	37,500株	
発行済株式の総数	普通株式	49,355,938株
A種類株式	1,500株	
株主数	普通株式	22,755名
A種類株式	1名	

□ 所有者別株主数 (普通株式) 合計: 22,755名

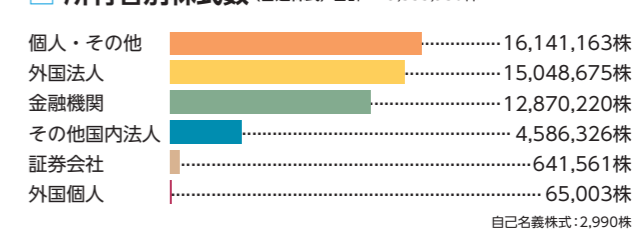


□ 大株主 (普通株式)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
TAIYO FUND,L.P.	8,538	17.30
日本生命保険相互会社	3,242	6.57
株式会社みずほ銀行	1,916	3.88
株式会社三井住友銀行	1,864	3.78
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,016	2.06
アルパック持株会	1,000	2.03
株式会社三菱東京UFJ銀行	910	1.84
稲畑産業株式会社	795	1.61
バンクオブニューヨーク エスエーエヌアイフォービーエヌアイ ジーシーエム	727	1.47
クワイアット アカウント イー エルエスシービー	702	1.42
三井住友信託銀行株式会社	702	1.42

(注) 持株比率は自己株式(2,990株)を控除して計算しております。

□ 所有者別株式数 (普通株式) 合計: 49,355,938株



ULVAC

株式会社 アルバック

アルバックレポートに関するお問い合わせ先

株式会社 アルバック 経営企画室 広報・IR室

〒253-8543 神奈川県茅ヶ崎市萩園2500番地

TEL.0467-89-2033 FAX.0467-89-2250

www.ulvac.co.jp